

# 学生要覧

未来科学研究科

Tokyo Denki University Catalog

# 2026(令和8)年度



# 2026(令和8)年度 授業日程(未来科学研究科)

## 2026(令和8)年度 前期

2026	日	月	火	水	木	金	土	予定			
4月				1	2	3	4	1日～8日：オリエンテーション(4/2入学式) 10日：授業開始 29日：昭和の日(授業実施日)			
					オリ	入学	オリ		オリ		
	5	6	7	8	9	10	11				
		オリ	オリ	オリ		(1)	(1)				
	12	13	14	15	16	17	18				
		(1)	(1)	(1)	(1)	(2)	(2)				
	19	20	21	22	23	24	25				
		(2)	(2)	(2)	(2)	(3)	(3)				
	26	27	28	29	30						
		(3)	(3)	(3)	(3)						
	5月					1	2			1日：4/29 振替休校(休校運用) 3日：憲法記念日 4日：みどりの日 5日：こどもの日 6日：振替休日	
						振替	(4)				
		3	4	5	6	7	8		9		
					(4)	(4)	(5)				
10		11	12	13	14	15	16				
		(4)	(4)	(4)	(5)	(5)	(6)				
17		18	19	20	21	22	23				
		(5)	(5)	(5)	(6)	(6)	(7)				
24		25	26	27	28	29	30				
		(6)	(6)	(6)	(7)	(7)	(8)				
31											
6月			1	2	3	4	5	6	(4日：授業開始(前後期)) 7日：オープンキャンパス(予定)		
			(7)	(7)	(7)	(8)	(8)	(9)			
	7	8	9	10	11	12	13				
		OC	(8)	(8)	(8)	(9)	(9)	(10)			
	14	15	16	17	18	19	20				
		(9)	(9)	(9)	(10)	(10)	(11)				
	21	22	23	24	25	26	27				
		(10)	(10)	(10)	(11)	(11)	(12)				
	28	29	30								
		(11)	(11)								
	7月				1	2	3	4		20日：海の日(授業実施日) 25日、27日、28日：授業予備日 22日：授業終了 29日：追試①	
					(11)	(12)	(12)	(13)			
		5	6	7	8	9	10	11			
		(12)	(12)	(12)	(13)	(13)	(14)				
12		13	14	15	16	17	18				
		(13)	(13)	(13)	(14)	(14)					
19		20	21	22	23	24	25				
		(14)	(14)	(14)		予備					
26		27	28	29	30	31					
		予備	予備	追①							
8月							1		1日～2日：オープンキャンパス(予定) 4日：追試② 7日～17日：一斉休業期間 7日：7/20 振替休校(休校運用) 11日：山の日		
							OC				
		2	3	4	5	6	7	8			
		OC	追②		振替	休	休				
	9	10	11	12	13	14	15				
		休	休	休	休	休	休				
	16	17	18	19	20	21	22				
		休	休								
	23	24	25	26	27	28	29				
	30	31									

## 2026(令和8)年度 後期

2026	日	月	火	水	木	金	土	予定			
9月				1	2	3	4	5	11日：創立記念日 12日：授業開始 19日：前期末修了式(予定) 21日：敬老の日(授業実施日) 22日：国民の休日(授業実施日) 23日：秋分の日		
	6	7	8	9	10	11	12				
						(1)	(1)				
	13	14	15	16	17	18	19				
		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(2)				
	20	21	22	23	24	25	26				
		(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(3)				
	27	28	29	30							
		(3)	(3)	(2)							
	10月					1	2	3		2日：9/21 振替休校(休校運用) 12日：スポーツの日(授業実施日) 29日、30日：旭祭準備日(休講) 31日：旭祭(休講)	
						(3)	振替	(4)			
		4	5	6	7	8	9	10			
		(4)	(4)	(3)	(4)	(3)	(5)				
11		12	13	14	15	16	17				
		(5)	(5)	(4)	(5)	(4)	(6)				
18		19	20	21	22	23	24				
		(6)	(6)	(5)	(6)	(5)	(7)				
25		26	27	28	29	30	31				
		(7)	(7)	(6)	準備	準備	本祭				
11月		1	2	3	4	5	6	7	1日：旭祭(休講) 2日、3日：旭祭片付け日(休講) (3日：文化の日) (7日：授業開始(後後期)) 23日：勤労感謝の日(授業実施日)		
		本祭	片付	片付	(7)	(7)	(6)	(8)			
		8	9	10	11	12	13	14			
		(8)	(8)	(8)	(8)	(7)	(9)				
	15	16	17	18	19	20	21				
		(9)	(9)	(9)	(9)	(8)	(10)				
	22	23	24	25	26	27	28				
		(10)	(10)	(10)	(10)	(9)	(11)				
	29	30									
		(11)									
	12月				1	2	3	4		5	15日：授業休講日 学生支援センター行事 【卒業生による仕事研究セミナー】 25日：年内授業終了日 26日：9/22 振替休校(休校運用) 28日～1/6：冬季休業(予定)
					(11)	(11)	(11)	(10)		(12)	
		6	7	8	9	10	11	12			
		(12)	(12)	(12)	(12)	(11)	(13)				
13		14	15	16	17	18	19				
		(13)	キャリア	(13)	(13)	(12)	(14)				
20		21	22	23	24	25	26				
		(14)	(13)	(14)	(14)	(13)	振替				
27		28	29	30	31						
2026 1月							1	2	5日：10/12 振替休校(休校運用) 6日：11/23 振替休校(休校運用) 11日：成人の日 13日、14日、18日：授業予備日 15日～17日：大学入学共通テスト(前日準備含む)に伴う休講 22日：追試① 27日：追試②		
		3	4	5	6	7	8	9			
				振替	振替		(14)				
	10	11	12	13	14	15	16				
			(14)	予備	予備	共テ	共テ				
	17	18	19	20	21	22	23				
		共テ	予備			追①					
	24	25	26	27	28	29	30				
				追②							
	31										
	2月		1	2	3	4	5	6		11日：建国記念の日 13日：修士論文及び研究成果発表会 23日：天皇誕生日	
		7	8	9	10	11	12	13			
		14	15	16	17	18	19	20			
21		22	23	24	25	26	27				
28											
3月			1	2	3	4	5	6	19日：修了式 21日：春分の日 22日：振替休日		
		7	8	9	10	11	12	13			
		14	15	16	17	18	19	20			
		21	22	23	24	25	26	27			
		28	29	30	31						

カレンダーの見方

- ： 授業を行う日(学力考査・追試験日等を含む)
- ※ ①などの丸数字は、各曜日ごとの対面での授業回を表す。
- ※ 授業は対面授業 14回 + オンデマンド授業 1回で実施する。  
オンデマンド授業は学期内に実施する(実施日は科目による)。
- ： 授業を行わない日(但し集中授業は除く)
- ※ 授業を行わない日に集中授業、補講等を実施する場合があります。
- ※ 授業日程、行事予定等は変更の可能性があります。  
変更がある場合は、別途掲示等にて周知をします。
- ※ 休業期間中及び休校日並びに本学行事開催等に伴う、事務窓口及び学内入構等の取扱いについては、必要に応じて別途案内します。

# UNIVERSITY CATALOG

## 学生要覧 2026 大学院編

### 【(公財)大学基準協会による認証評価(大学評価)の受審について】

認証評価制度は、2002年の学校教育法の改正に伴い2004年に導入されました。各大学は、教育・研究水準の向上に資するため、当該大学の教育・研究、組織・運営、施設・設備等の総合的な状況について、一定期間(7年以内)ごとに文部科学大臣の認証を受けた者(認証評価機関)による評価(認証評価)を受審することとなっています。

本学は、2009年度、2016年度に続き、2023年度に(公財)大学基準協会(認証評価機関)において、認証評価を受審した結果、大学基準に適合していることが認定(認証期間:2024年4月1日~2031年3月31日)されました。

今後も更なる教育・研究活動の充実・発展のため、改善・改革を実施し、学生の皆さんの期待に応えられるよう、教育・研究の質の向上に取り組みます。

東京電機大学大学院 未来科学研究科

# 学生要覧 目次

## 第1章 新入生の皆さんへ

高度専門家を目指してください(学長 射場本 忠彦) .....	2
唯一無二のプロフェッショナルとして(未来科学研究科委員長 土田 寛) .....	3

## 第2章 学修案内

未来科学研究科の教育	
東京電機大学大学院 .....	8
未来科学研究科 .....	10
各専攻の目的、方針、授業科目配当表及び研究指導を担当する教員の専門分野と指導研究テーマ	
建築学専攻 .....	14
情報メディア学専攻 .....	22
ロボット・メカトロニクス学専攻 .....	30

## 第3章 履修案内

1 皆さんの情報伝達・連絡の方法 .....	38
2 履修登録 .....	39
3 履修することができる授業科目 .....	39
4 他大学院との単位互換協定に基づく授業科目履修の扱い .....	40
5 昼夜開講制の実施 .....	40
6 授業 .....	41
7 シラバス(講義要目) .....	43
8 学力考査及び成績評価 .....	43
9 研究指導実施体制 .....	44
10 進級要件 .....	47
11 修了要件 .....	47
12 学位 .....	50
13 修士論文等の取扱い .....	51
14 教育職員免許状 .....	53
15 一級建築士資格要件(実務経験) .....	56
16 先端科学技術研究科博士課程(後期)進学 .....	58
17 留学・海外語学研修 .....	58
18 連携大学院協定研究所 .....	60
19 履修証明プログラム .....	61
20 創造工学ユニット .....	61
21 学生ポータルサイト「DENDAI - UNIPA」 .....	65
22 e-Learning システム WebClass .....	68
23 ビデオコミュニケーションプラットフォーム「Zoom」 .....	70

# 第1章 新入生の皆さんへ

## 高度専門家を目指してください

学長 射場本 忠彦

20世紀後半から今日にかけて、科学技術は目覚ましい発展を遂げ、世界的に経済成長とグローバル化をもたらし、すべての社会活動・産業活動の基盤となってきました。すなわち、知識・情報・技術が、これまでにないほど高い価値を持つ、知識基盤社会になってきました。

このような社会環境のなかで、東京電機大学の大学院は、修士課程には、工学研究科、理工学研究科、未来科学研究科、システムデザイン工学研究科があり、博士課程（後期）としては、先端科学技術研究科を設置しています。

大学院修士課程は、知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材の養成を使命とし、高度専門家となるための幅広い学識の涵養を図り、研究能力およびそれに加えて高度で専門的な職業を担うための、卓越した能力を培う課程であります。

博士課程（後期）は、高度な専門性が求められる社会の多様な方面で活躍し得る、先進的な研究能力とその基盤となる豊かな学識を養い、修了者が研究・教育機関に限らず、社会の多様な場で指導的な人材として活躍するための高潔な人格をも涵養する課程であります。

産業界を取り巻く環境変化は、株主、管理運営、製造販売などのグローバル化が進み、企業自体が国際企業になってきました。ほとんどの業界での近況を見てもわかる通り、新しい技術への対応、開発製造のサイクルが年々短縮されています。このような環境から、高度専門家には、新しい技術を生み出すため、さまざまな分野の人と協力して問題解決にあたることの出来るグローバルコミュニケーション能力が、益々要求されてきています。以上述べた観点から、コースワークの充実による実学・実践能力および、国際的に活躍できる能力を養成する大学院教育に、ますます大きな期待が寄せられてきています。

理工系の学部生の約40%が大学院に進学していますが、先進諸外国と比べて日本の大学院修了者の比率はまだ低い状況にあります。大学院での教育・研究を通じて、これからの科学技術の発展にも十分適応できるような基盤技術を身に付けた高度専門家の輩出が期待されています。

本学は、「実学尊重」を建学の精神、「技術で社会に貢献する人材の育成」を使命とし、初代学長の丹羽保次郎先生の名言「技術は人なり」を教育・研究の理念としてきました。大学院での研究を通じて教育を受ける院生の皆さんは、本学の使命である、社会に貢献する技術を生み出す、あるいは社会の複雑な諸問題を技術により解決する人材になるべく、自分の専門だけでなく、関連する様々な分野にも興味を持ってください。

これからの国際化、先端化、総合化の社会で活躍するための技術基盤と研究能力、豊かな学識に加え、全体を俯瞰し判断して主導しうる能力を東京電機大学の大学院で磨き、「人の心がわかる」高度専門家になることを期待しています。

## 唯一無二のプロフェッショナルとして

未来科学研究科委員長 土田 寛

複雑化した現代社会は、インプットすることが怒涛のように押しよせてきているような状態です。言葉は脈絡なくも乱用され垂れ流されており、自己の相対的な定位が難しくなっていると考えています。真に必要な知識は氾濫する情報のようなものに埋没しがちですが、未来科学部でそれぞれの専門領域を軸として真理に必要な知識を区別、取捨選択し習得してきたことを前提として修士課程はあります。東京電機大学の未来科学部は未来科学研究科と一体のカリキュラムを編成して設置されていますが、学部で培われた専門性を本当の意味で複層的、複合的な研究活動等を通じて、自己の中に実装していくステージとなります。

20世紀には科学技術が世界を豊かにすると頑なに信じていた可能性は否めません。おそらく今でも科学技術は未来を明るくできる大きな存在であることも否定はできません。しかし、20世紀に比べて情報通信の発達、あらゆる移動手段の開発等によって世界は物理的に狭くなっている可能性もありますが、それと同時に価値観の多様化、パーソナライズされる人々の思考により、つながるといふことと分断されるといふことが同時に成立するような概念が存在している可能性もあり、それを理解したうえでふるまいが重要になってきています。盲目的な技術革新はもろ刃の刃になりかねない危険性がより鮮明に顕在化しているようにも感じています。

未来科学研究科における研究、研鑽の理念は、自身の専門性を高度化することに加えて、同時に研究科の他専攻である「情報メディア学」、「ロボット・メカトロニクス学」、「建築学」のそれぞれの高度な専門性を有する他者理解を進める中で、複雑化する社会課題を多角的に理解して、解決に結び付ける能力を形作ることです。さらに大学院生は単なる学生にとどまらず、大学教員らの共同研究者として国内外を問わず研究を通じた知識と知見を発信する側のスタンスを取ります。これは単に勉学で得た知識を再構成にすることにとどまらず、独創的で創造性のある未来を構築するうえで他では習得できない代えがたい能力と考えます。現代社会では人々は省力化と利便性を盲目的に追い求め、人が人らしく生きていくための社会を如何に未来につなげるかを考えることを怠っている可能性があります。社会的な需要がある、経済的に優位であることのみを言い訳にしたときに、思考は単純化されすぎ世界的な諸問題是对応できない可能性があることもわかりつつあります。その意味で、これからの先駆者に求められる技術論は先進性のみでなく、歴史や文化に根差して継承していくべき哲学的な理念が根底にある必要性は高まっています。

未来科学研究科での研究活動、特に研究室における先生、先輩、後輩らと共有する時間と経験を通じた修学は我が国において唯一無二のプロフェッショナルが巣立ち、飛躍する滑走路となっています。

新入生へ

学修案内

F  
M  
A

F  
M  
I

F  
M  
R

履修案内

# 第2章 学修案内

新入生へ
学修案内
F M A
F M I
F M R
履修案内

# 未来科学研究科の教育

## 東京電機大学大学院

### 建学の精神 「実学尊重」

1907年（明治40年）の「電機学校設立趣意書」において、「工業は学術の応用が非常に重要だが、本学は学問としての技術の奥義を研究するのではなく、技術を通して社会貢献できる人材の育成を目指すために実物説明や実地演習、今日の実験や実習を重視し、独創的な実演室や教育用の実験装置を自作する等の充実に努めること」に基づき、「実学尊重」を建学の精神として掲げました。

### 教育・研究理念 「技術は人なり」

1949年（昭和24年）の東京電機大学設立時において、初代学長の丹羽 保次郎（にわ やすじろう）先生は、「よい機械を作るにはよい技術者でなければならない」すなわち、「立派な技術者になるには、人として立派でなければならない」という考え方に基づいた「技術は人なり」を教育・研究理念として掲げました。

### 学位授与の方針（ディプロマポリシー）

東京電機大学大学院修士課程は、科学技術で社会に貢献できる人材の育成を使命とし、所定の期間在学し（※）、必要な単位を修得し、次の学修成果を上げ、学位論文審査または特定の課題についての研究成果の審査に合格した者に修士の学位を授与します。

- (1) 実学尊重を旨として、専門分野に応じた高度な専門知識および関連分野の基礎知識を持つ
- (2) 理工学に関わる基礎的課題を設定し、専門的な知識と技術を活用して、それを解決し発表できる実践力を持つ
- (3) 「技術は人なり」の精神のもと、高度専門技術者および研究者として必要な教養や倫理観、コミュニケーション力などを持つ

※標準修業年限は、修士課程2年

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

修士課程では、学士課程で養った教養、専門知識を基礎として、各研究科、専攻のディプロマ・ポリシーで定めた資質・能力を修得させるために、以下の教育課程編成の方針に従って、科目、研究指導、教育プログラムを体系的に実施します。

- (1) 専門分野に応じた高度な専門知識および関連分野の基礎知識を身につける科目を設置します。
- (2) 専門分野の課題を設定し、それを解決し発表できる実践力を身につけさせるために、国内外の文献調査、適切な実験・分析・解析など、指導教員などとの議論、学会発表、学術論文発表などの研究指導を実施します。
- (3) 高度専門技術者および研究者として必要な教養や倫理観、コミュニケーション力などを身につける科目もしくは教育プログラムを設置します。

## 未来科学研究科

### 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

未来科学研究科は、学部教育で培った科学技術に関する知識をさらに発展させて、人類の知的生産活動を促進する生活空間（知的住空間、知的情報空間、知的行動空間）を創生する科学技術の開発及びそれを発展する能力を修得させることを目的とします。

すなわち、人の生活空間環境の発展と維持に、科学技術を適用しかつ共生させることができる、幅広い視野と時代の方向性を見通す先見性と創造性を有する高度専門科学技術者を養成します。

### 学位授与の方針（ディプロマポリシー）

未来科学研究科は、人の生活空間環境の発展と維持に必要な技術で社会に貢献できる人材の育成を使命とし、所定の期間在学し（※）、必要な単位を修得し、次の学修成果を上げ、学位論文審査または特定の課題についての研究成果の審査に合格した者に修士の学位を授与します。

- (1) 実学尊重を旨として、本研究科が設置する各専攻の専門分野に応じた、高度な専門知識および実践に活かせる関連分野の基礎知識を持つ。
- (2) 各専攻の専門分野に関わる課題を設定し、実践的かつ専門的な知識と技術を活用して、それを解決し発表できる。
- (3) 「技術は人なり」の精神のもと、高度専門技術者および研究者としての実践に必要な教養や倫理観、コミュニケーション力などを持つ。

※標準修業年限は、修士課程2年

### 教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

未来科学研究科では、学士課程で養った教養、専門知識を基礎として、研究科の教育モットーである「プロの能力、豊かな教養」を育み、各専攻のディプロマ・ポリシーで定めた資質・能力を修得させるために、以下の教育課程編成の方針に従って、科目、研究指導、教育プログラムを体系的に実施します。

- (1) 各専攻の専門分野に応じた高度な専門知識および関連分野の基礎知識を身につける科目を設置します。
- (2) 各専攻の専門分野の課題を設定し、それを解決し発表できる実践力を身につけさせるために、国内外の文献調査、適切な実験・分析・解析など、指導教員などとの議論、学会発表、学術論文発表などの研究指導を実施します。
- (3) 各専攻の専門分野に応じた高度専門技術者および研究者として必要な教養や倫理観、コミュニケーション力などを身につける科目もしくは教育プログラムを設置します。

各専攻の目的、方針、  
授業科目配当表及び研究指導を  
担当する教員の専門分野と  
指導研究テーマ

新入生へ
学修案内
F M A
F M I
F M R
履修案内

# 建築学専攻

Architecture and Building Engineering

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

授業科目配当表

カリキュラムマップ

研究指導を担当する教員の専門分野と指導研究テーマ

## 建築学専攻

### 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

建築学専攻は、学部教育で培った建築技術に関する知識をさらに発展させて、人類の知的住空間を創生する科学技術の開発及びそれを展開する能力を修得させることを目的とします。

すなわち、建築学の「計画・意匠」「構造・生産」「環境・設備」「歴史・都市」「住環境・インテリア」部門の創造性を有する高度専門科学技術者を養成します。

### 学位授与の方針（ディプロマポリシー）

未来科学研究科の建築学専攻は、人の生活空間環境の発展と維持に必要な技術で社会に貢献できる人材の育成を使命とし、所定の期間在学し（※）、必要な単位を修得し、次の学修成果を上げ、学位論文審査または特定の課題についての研究成果の審査に合格した者を建築学の「建築計画・意匠」「建築構造」「建築環境・設備」部門の創造性を有する高度専門技術者・設計者・研究者と認定し、修士の学位を授与します。

- (1) 実学尊重を旨として、建築学の高度な専門知識および実践に活かせる関連分野の基礎知識を持つ。
- (2) 建築学に関わる課題を設定し、実践的かつ専門的な知識と技術を活用して、それを解決し発表できる。
- (3) 「技術は人なり」の精神のもと、高度専門技術者・設計者および研究者としての実践に必要な教養や倫理観、コミュニケーション力などを持つ。

※標準修業年限は、修士課程2年

### 教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

未来科学研究科の建築学専攻では、学士課程で養った教養、専門知識を基礎として、研究科の教育モットーである「プロの能力、豊かな教養」を育み、建築学専攻のディプロマ・ポリシーで定めた資質・能力を修得させるために、高度で専門的な研究・設計能力を培う科目とインターシップなどの実学を柱とし、以下の教育課程編成の方針に従って、科目、研究指導、教育プログラムを体系的に実施します。

- (1) 建築学分野の高度な専門知識および関連分野の基礎知識を身につける科目を設置します。
- (2) 建築学の専門分野の課題を設定し、それを解決し発表できる実践力を身につけさせるために、国内外の文献調査、適切な実験・分析・解析など、指導教員などとの議論、学会発表、学術論文発表などの研究指導を実施します。
- (3) 建築学分野に応じた高度専門技術者・設計者および研究者として必要な教養や倫理観、また、海外との授業および研究の交流を通して国際性やコミュニケーション力などを身につける科目もしくは教育プログラムを設置します。

2026・2027年度 授業科目配当表 建築学専攻 修士課程

2026年度入学者用カリキュラム

分野	科目名	開講年度 開講区分		コマ	単位数	必修 選択	配当年	配当期	授業形態 (主)	備考	DP 対応	教職	建築士			
		2026	2027										形態	意匠	設備	構造
専門 研究	建築学特別設計Ⅰ	随時	随時	1	2	選(※)	1	通年	演習	修士課程を修了するためには、「高度専門プログラム(研究コース)」又は「職能教育プログラム(スタジオコース)」のいずれかを択一必修として、履修、合格しなければならない。入学時に決定したプログラム(コース)は、在学中変更できない。	DP2					
	建築学特別設計Ⅱ	随時	随時	1	2	選(※)	2	通年	演習		DP2					
	建築学特別研究Ⅰ	随時	随時	2	4	選(※)	1	通年	実験・実習	※高度専門プログラム(研究コース)履修者は「建築学特別研究Ⅰ・Ⅱ」の修得が必要である。また、「建築学特別設計Ⅰ・Ⅱ」は履修できない。	DP2					
	建築学特別研究Ⅱ	随時	随時	2	4	選(※)	2	通年	実験・実習	※職能教育プログラム(スタジオコース)履修者は「建築学特別設計Ⅰ・Ⅱ」の修得が必要である。また、「建築学特別研究Ⅰ・Ⅱ」は履修できない。	DP2					
空間 デザイン	建築空間特論	○●	○●	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1	工業	関講	○	○	
	建築意匠特論		●	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1	工業	関講	○		
	都市デザイン特論	○●	○●	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1	工業	関講	○		
	地域施設計画特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1	工業	関講	○		
	近代建築特論		○	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1	工業	関講	○		
工学 デザイン	建築鋼構造特論		○	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1		関講			○
	建築ハイブリッド構造特論		○	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1	工業	関講			○
	建築構造設計特論	●	●	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1	工業	関講			○
	コンピューターによる骨組解析特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1		関講			○
	建築環境形成技術特論	○●		1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1	工業	関講			○
専攻 共通科目	建築環境心理生理特論	●	●	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1	工業	関講	○	○	
	建築環境形成特論	○●	○●	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1	工業	関講			○
	建築防災工学特論		●	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1		関講			○
	統計解析法特論		●	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1					
	建築学実習Ⅰ	○	○	随時	2(※)	選	1・2	半期(前)	実験・実習	※高度専門プログラム(研究コース)履修者は「建築学実習Ⅰ～Ⅳ」が履修可能。	DP2	工業	イン	○	○	○
	建築学実習Ⅱ	○	○	随時	2(※)	選	1・2	半期(後)	実験・実習		DP2	工業	イン	○	○	○
	建築学実習Ⅲ	○	○	随時	2(※)	選	1・2	半期(前)	実験・実習	※職能教育プログラム(スタジオコース)履修者は「建築学実習Ⅰ～Ⅲ」が履修可能。	DP2		イン	○	○	○
	建築学実習Ⅳ	○	○	随時	2	選	1・2	半期(後)	実験・実習		DP2	工業	イン	○	○	○

分野	科目名	開講年度 開講区分		コマ	単位数	必修 選択	配当年	配当期	授業形態 (主)	備考	DP 対応	教職	建築士					
		2026	2027										形態	意匠	設備	構造		
専攻 共通 科目	建築学特別輪講Ⅰ	随時	随時	1	1	選	1・2	半期(前)	実験・実習		DP2							
	建築学特別輪講Ⅱ	随時	随時	1	1	選	1・2	半期(後)	実験・実習		DP2							
	建築学特別輪講Ⅲ	随時	随時	1	1	選	1・2	半期(前)	実験・実習		DP2							
	建築学特別輪講Ⅳ	随時	随時	1	1	選	1・2	半期(後)	実験・実習		DP2							
	建築技術・知識演習Ⅰ	○	○	1	2	選	1	半期(前)	演習	在学中に2級建築士を取得した場合は、「建築技術・知識演習Ⅱ」の単位を認定する。	DP2	工業	関演	○	○	○		
	建築技術・知識演習Ⅱ	●	●	1	2	選	1	半期(後)	演習		DP2	工業	関演	○	○	○		
	インターンシップⅠ	○	○	随時	2	選	1	四半期(前前) 四半期(後前)	実験・実習	(一級建築士資格要件の実務経験2年を取得する場合は、「インターンシップⅠ～Ⅵ」および「建築学実習Ⅰ～Ⅳ」の中から計14単位以上修得する必要がある。詳細は、「14一級建築士資格要件」にて確認のこと。)	DP2		イン	○	○	○		
	インターンシップⅡ	○	○	随時	2	選	1	四半期(前後) 四半期(後後)	実験・実習		DP2		イン	○	○	○		
	インターンシップⅢ	○	○	随時	4	選	1	四半期(前前)	実験・実習		DP2		イン	○	○	○		
	インターンシップⅣ	○	○	随時	4	選	1	四半期(後後)	実験・実習		DP2		イン	○	○	○		
インターンシップⅤ	○	○	随時	4	選	2	四半期(前前)	実験・実習	DP2			イン	○	○	○			
インターンシップⅥ	○	○	随時	4	選	2	四半期(前後)	実験・実習	DP2			イン	○	○	○			
「豊かな 教養」 科目	デジタル放送特論	●	●	1	2	選	1・2	半期(後)	講義			DP1						
	セキュリティインテリジェンスと心理・倫理・法	●	●	1	2	選	1・2	半期(前)	講義			DP1						
	ITとビジネスモデル特論A	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	講義			DP1						
	ITとビジネスモデル特論B	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	講義			DP1						
研究者 教養科目 (4単位 必修)	海外サイエンス・プログラム	○	○	集中	2	選	1・2	集中	演習	海外英語短期研修	DP3							
	アカデミック・プレゼンテーション	○●	○●	1	2	選	1	半期(前)	講義		DP3							
	アカデミック・ライティング	○●	○●	1	2	選	1	半期(後)	講義		DP3							
	研究者倫理	○●	○●	1	2	選	1	半期(前/後)	講義および演習	オープン科目	DP3							
	科学技術社会論	○●	○●	1	2	選	1・2	半期(前/後)	講義および演習	オープン科目	DP3							
	産業別企業研究特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP3							
	融合技術戦略特論		○	1	2	選	1・2	半期(前)	講義	集中講義	DP3							
	技術経営学特論	○		1	2	選	1・2	半期(前)	講義	集中講義	DP3							
	建築リテラシー特論Ⅰ	●	●	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP3							
	建築リテラシー特論Ⅱ	●	●	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP3							
	建築設計国際実習	○	○	集中	2	選	1	通年	実験・実習	集中講義	DP3							

注1) 開講区分欄 「●○」= 昼夜開講、「○」= 昼間開講、「●」= 夜間開講、「随時」= 随時開講  
 注2) イン…インターンシップ科目(実務経験2年の場合は14単位以上、実務経験1年の場合は4単位以上修得のこと。)  
 関演…インターンシップ関連演習科目(上限8単位)  
 関演…インターンシップ関連演習科目(上限8単位)

2026 年度カリキュラム

建築学専攻 修士課程 カリキュラムマップ

目的	分野 (部門)	1 年		2 年	
		前期	後期	前期	後期
専門性の涵養 ①：インターンシップ科目 ②：インターンシップ関連の演習科目 ③：インターンシップを補助する意味での座学系科目	専門研究	建築学特別設計Ⅰ① 2		建築学特別設計Ⅱ① 2	
		建築学特別研究Ⅰ① 4		建築学特別研究Ⅱ① 4	
	空間デザイン	都市デザイン特論③ 2		都市デザイン特論③ 2	
		地域施設計画特論③ 2		地域施設計画特論③ 2	
		建築空間特論③ 2		建築空間特論③ 2	
	工学デザイン	建築構造設計特論③ 2		建築構造設計特論③ 2	
		コンピューターによる骨組解析特論③ 2		コンピューターによる骨組解析特論③ 2	
	専攻共通科目	建築環境心理生理特論③ 2		建築環境形成特論③ 2	
		建築学特別輪講Ⅰ 1		建築学特別輪講Ⅱ 1	
		建築学特別輪講Ⅲ 1		建築学特別輪講Ⅳ 1	
建築環境心理生理特論③ 2		建築環境形成特論③ 2			
統計解析法特論 2		建築防災工学特論③ 2			
建築学特別輪講Ⅰ 1		建築学特別輪講Ⅱ 1			
キャリア形成	建築学実習Ⅰ① 2		建築学実習Ⅱ① 2		
	建築学実習Ⅲ① 2		建築学実習Ⅳ① 2		
	建築技術・知識演習Ⅰ② 2		建築技術・知識演習Ⅱ② 2		
	インターンシップⅠ～Ⅵは全て①：インターンシップ科目	インターンシップⅠ 2	インターンシップⅡ 2	インターンシップⅠ 2	インターンシップⅡ 2
		インターンシップⅢ 4	インターンシップⅣ 4	インターンシップⅤ 4	インターンシップⅥ 4
	研究者教養科目	建築設計国際実習(集中)① 2			
		産業別企業研究特論 2		産業別企業研究特論 2	
学際性の涵養	「豊かな教養」科目	セキュリティインテリジェンスと心理・倫理・法 2		セキュリティインテリジェンスと心理・倫理・法 2	
		ITとビジネスモデル特論A 2		ITとビジネスモデル特論B 2	
	技術経営学特論(集中) 2		融合技術戦略特論(集中) 2		
国際性の涵養	海外サイエンス・プログラム 2		海外サイエンス・プログラム 2		
	研究者教養科目	アカデミック・プレゼンテーション 2		アカデミック・ライティング 2	
倫理観の涵養		研究者倫理 2		研究者倫理 2	
	科学技術社会論 2		科学技術社会論 2		
	建築リテラシー特論Ⅰ 2		建築リテラシー特論Ⅱ 2		
	建築リテラシー特論Ⅰ 2		建築リテラシー特論Ⅱ 2		

※2年次科目で、網掛けの科目は、1・2年配当、毎年開講科目

※科目毎の一級建築士実務経験に係る単位認定との対応状況については、科目配当表に記載

※①はリサーチワーク科目、それ以外はコースワーク科目。

## 研究指導を担当する教員の専門分野と指導研究テーマ

### 《建築学専攻》

教員氏名 居室 メールアドレス	専門分野	指導している主な研究テーマ
秋田 剛 1号館 10703B akita@cck. dendai.ac.jp	<ul style="list-style-type: none"> <li>音環境</li> <li>環境心理生理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サウンドスケープの記述・評価手法と認知・評価構造に関する研究</li> <li>高周波音の知覚に関する研究</li> <li>注意・複合感覚の視点からの視聴覚知覚現象に関する研究</li> </ul>
朝川 剛 1号館 10712B asakawa@mail. dendai.ac.jp	<ul style="list-style-type: none"> <li>建築構造設計</li> <li>木質構造</li> <li>免震・制振構造</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>木質平面混構造の研究</li> <li>集成林梁とコンクリート床版を組み合わせたハイブリッド構造の研究</li> <li>変位制御型プレースの実用化に向けた研究</li> <li>災害時のレジリエンスの具体化に関する研究</li> </ul>
大崎 淳史 1号館 10604A osaki@mail. dendai.ac.jp	<ul style="list-style-type: none"> <li>建築計画</li> <li>建築人間工学</li> <li>福祉住環境</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住宅・公共・福祉建築の建築計画</li> <li>建築空間の知覚・認知特性</li> <li>バリアフリー環境の研究</li> </ul>
小笠原 正豊 1号館 11415A masatoyo@mail. dendai.ac.jp	<ul style="list-style-type: none"> <li>建築設計</li> <li>建築構工法</li> <li>建築生産</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>BIMに関する研究</li> <li>設計プロセスの国際比較研究</li> <li>構法・工法に関する研究</li> </ul>
笹谷 真通 1号館 10713B sasatani@mail. dendai.ac.jp	<ul style="list-style-type: none"> <li>建築ハイブリッド構造</li> <li>耐震設計</li> <li>構造計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>異種材料を組み合わせた建築ハイブリッド構造の力学的性状に関する実験的研究および構造解析</li> <li>異種材料を組み合わせた建築ハイブリッド構造の構造設計への適用性に関する研究</li> <li>木と鋼を用いたハイブリッド構造の各種部材の力学的性状に関する研究</li> <li>ガラス素材を用いた建築外装の力学的性能に関する実験的研究</li> </ul>

教員氏名 居室 メールアドレス	専門分野	指導している主な研究テーマ
菅原大輔 1号館 11415B d.sugawara@ mail.dendai.ac.jp	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築設計</li> <li>・建築意匠</li> <li>・建築計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域性に根差した設計手法研究</li> <li>・地域拠点の計画と意匠の研究</li> <li>・複数の地域拠点の配置とその連携に関する研究</li> </ul>
土田寛 1号館 10704B tsuchida@mail. dendai.ac.jp	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市デザイン</li> <li>・プロジェクトデザイン</li> <li>・景観デザイン</li> <li>・都市計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトデザインに関するプロセスの構築とコンセンサスの形成</li> <li>・地域文脈の解析（地域資源の発掘と意味づけ）と地域整備コンセプトの形成</li> <li>・都市のかたちと都市計画（形態規制とコントロール）・ランドデザインとの関係</li> <li>・パブリックスペースに内在する空間構成（機能・用途別）把握と社会的行動</li> </ul>
西川雅弥 1号館 10715B nishikawa@mail. dendai.ac.jp	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築環境工学</li> <li>・建築設備</li> <li>・省エネルギー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネルギー改修の実態調査ならびに設計手法に関する研究</li> <li>・湿熱環境が居住者の快適性・知的生産性に与える影響に関する研究</li> </ul>
日野雅司 1号館 11417B hino@mail.dendai. ac.jp	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築設計</li> <li>・建築意匠</li> <li>・建築計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市の公共空間の研究</li> <li>・建築空間の構造と形態に関する研究</li> <li>・建築設計プロセスの研究</li> </ul>
本間小百合 1号館 10711B shonma@mail. dendai.ac.jp	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鋼構造</li> <li>・ステンレス構造</li> <li>・耐震・制震</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鋼構造建築物に対する制震ダンパーに関する研究</li> <li>・高強度鋼材を用いた構造部材に関する研究</li> <li>・木造軸組における薄鋼板製制震ダンパーに関する研究</li> <li>・ステンレス鋼材を用いた構造部材や接合部性能に関する研究</li> </ul>
百田真史 ☆ 1号館 10701B momota@cck. dendai.ac.jp	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築環境工学</li> <li>・建築設備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空調システムの省エネルギー化に関する研究</li> <li>・業務用建築物の設備設計手法</li> </ul>

教員氏名 居室 メールアドレス	専門分野	指導している主な研究テーマ
山田あすか 1号館 10708B asuka-y@mail. dendai.ac.jp	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築計画</li> <li>・ 環境行動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療・福祉・教育のための建築の空間構成や人々の行動特性に関する研究</li> <li>・ 環境づくりの方法・意義の検証と普及に関する研究</li> <li>・ こどもや高齢者・障がいのある人の生活の場としての都市環境のあり方に関する研究</li> </ul>
横手義洋 1号館 10707B yokote@mail. dendai.ac.jp	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築史</li> <li>・ 建築保存</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歴史的建造物の活用</li> <li>・ 西洋建築史・近代建築史研究</li> <li>・ 建築美学／建築論</li> </ul>

☆：専攻主任

# 情報メディア学専攻

Information Systems and Multimedia Design

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

授業科目配当表

カリキュラムマップ

研究指導を担当する教員の専門分野と指導研究テーマ

## 情報メディア学専攻

### 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

情報メディア学専攻は、学部教育で培った情報メディア技術に関する知識をさらに発展させて、人類の知的情報空間を創生する情報メディア工学に関する科学技術の開発及びそれを展開する能力を修得させることを目的とします。

すなわち、情報メディア学の「メディアデザイン」「ヒューマンコンピュータインタラクション」「ネットワーキング・コンピューティング」「サイバーセキュリティ」部門の創造性を有する高度専門科学技術者を養成します。

### 学位授与の方針（ディプロマポリシー）

未来科学研究科の情報メディア学専攻は、人の生活空間環境の発展と維持に必要な技術で社会に貢献できる人材の育成を使命とし、所定の期間在学し（※）、必要な単位を修得し、次の学修成果を上げ、学位論文審査または特定の課題についての研究成果の審査に合格した者を情報メディア学の「メディアデザイン」「ヒューマンコンピュータインタラクション」「ネットワーキング・コンピューティング」「サイバーセキュリティ」部門の創造性を有する高度専門技術者と認定し、修士の学位を授与します。

- (1) 実学尊重を旨として、情報メディア学の高度な専門知識および実践に活かせる関連分野の基礎知識を持つ。
- (2) 情報メディア学に関わる課題を設定し、実践的かつ専門的な知識と技術を活用して、それを解決し発表できる。
- (3) 「技術は人なり」の精神のもと、高度専門技術者および研究者としての実践に必要な教養や倫理観、コミュニケーション力などを持つ。

※標準修業年限は、修士課程2年

### 教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

未来科学研究科の情報メディア学専攻では、学士課程で養った教養、専門知識を基礎として、研究科の教育モットーである「プロの能力、豊かな教養」を育み、情報メディア学専攻のディプロマ・ポリシーで定めた資質・能力を修得させるために学部から大学院修士課程まで一貫性のあるカリキュラム編成を柱とし、以下の教育課程編成の方針に従って、科目、研究指導、教育プログラムを体系的に実施します。

- (1) 情報メディア学分野に応じた高度な専門知識および関連分野の基礎知識を身につける科目を設置します。
- (2) 情報メディア学の専門分野の課題を設定し、それを解決し発表できる実践力を身につけさせるために、国内外の文献調査、適切な実験・分析・解析など、指導教員などと

- の議論、学会発表、学術論文発表などの研究指導を実施します。
- (3) 情報メディア学分野における高度専門技術者および研究者として必要な教養や倫理観、コミュニケーション力などを身につける科目、もしくは教育プログラムを設置します。

2026・2027年度 授業科目配当表 情報メディア学専攻 修士課程

2026年度入学用カリキュラム

区分	科目名	開講年度 開講区分		コマ	単位数	必選自	配当年	配当期	授業形態 (主)	備考	DP 対応	教職
		2026	2027									
専門 研究	情報メディア学特別演習ⅠA	随時	随時	2	2	必	1	半期(前)	演習		DP2	
	情報メディア学特別演習ⅠB	随時	随時	2	2	必	1	半期(後)	演習		DP2	
	情報メディア学特別演習ⅡA	随時	随時	2	2	必	2	半期(前)	演習		DP2	
	情報メディア学特別演習ⅡB	随時	随時	2	2	必	2	半期(後)	演習		DP2	
	情報メディア学特別研究ⅠA	随時	随時	2	2	必	1	半期(前)	実験・実習		DP2	
	情報メディア学特別研究ⅠB	随時	随時	2	2	必	1	半期(後)	実験・実習		DP2	
	情報メディア学特別研究ⅡA	随時	随時	2	2	選(※)	2	半期(前)	実験・実習	※高度専門プログラム履修者は「情報メディア学特別研究ⅡA」と「情報メディア学特別研究ⅡB」の履修が必要である。	DP2	
	情報メディア学特別研究ⅡB	随時	随時	2	2	選(※)	2	半期(後)	実験・実習		DP2	
	情報メディア学特別制作A	随時	随時	2	2	選(※)	2	半期(前)	実験・実習	※職能教育プログラム履修者は「情報メディア学特別制作A」と「情報メディア学特別制作B」の履修が必要である。	DP2	
	情報メディア学特別制作B	随時	随時	2	2	選(※)	2	半期(後)	実験・実習		DP2	
	インターンシップ	○	○	随時	2	選	1・2	随時	実験・実習		DP2	
メディア・ デザイン	言語メディア特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1	情報
	共創・デザイン特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1	情報
	感性工学特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1	情報
	インタラクションデザイン特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1	情報
	インタラクティブCG特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1	情報
	ヒューマンメディアインターフェース特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1	情報
	コミュニケーション音響学特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1	情報
情報・ サイバー セキュリティ	ソフトウェアアーキテクチャ特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1	情報
	IoT特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1	情報
	知的計算システム特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1	情報
	群知能モビリティ特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1	情報
	デジタル・フォレンジック	●	●	1	2	選	1・2	半期(後)	演習		DP1	情報
	サイバーセキュリティ基盤Ⅰ	●	●	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1	情報
	サイバーセキュリティ基盤Ⅱ	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	講義	集中講義形式	DP1	情報
	オペレーティングシステム特論	●	●	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1	情報
	セキュリティインテリジェンスと心理・倫理・法	●	●	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1	情報
	情報セキュリティマネジメントとガバナンス	●	●	1	2	自	1・2	半期(後)	講義		DP1	
	セキュアシステム設計・開発	○	○	1	2	自	1・2	半期(後)	演習	集中講義形式	DP1	
	サイバーディフェンス実践演習	○	○	1	2	自	1・2	半期(前)	演習	集中講義形式	DP1	
	知的システム設計特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1	
	知能システム特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1	
計算機アーキテクチャ・高性能計算特論		○	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1		
情報数学特論	○●	○●	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1		
「豊かな 教養」 科目	IT最前線	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1	
	デジタル放送特論	●	●	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1	情報
	ITとビジネスモデル特論A	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1	
	ITとビジネスモデル特論B	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1	
	都市デザイン特論	○●	○●	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1	
	建築環境心理生理特論	●	●	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1	
研究者 教養科目 (4単位 必修)	海外サイエンス・プログラム	○	○	集中	2	選	1・2	集中	演習	海外英語短期研修	DP3	
	アカデミック・プレゼンテーション	○●	○●	1	2	選	1	半期(前/後)	講義		DP3	
	アカデミック・ライティング	○●	○●	1	2	選	1	半期(前/後)	講義		DP3	
	研究者倫理	○●	○●	1	2	選	1	半期(前/後)	講義および演習	オープン科目	DP3	
	科学技術社会論	○●	○●	1	2	選	1・2	半期(前/後)	講義および演習	オープン科目	DP3	
	産業別企業研究特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP3	
	融合技術戦略特論		○	1	2	選	1・2	半期(前)	講義	集中講義	DP3	
	技術経営学特論	○		1	2	選	1・2	半期(前)	講義	集中講義	DP3	

※ 修士課程を修了するためには、「高度専門プログラム」または「職能教育プログラム」のいずれかを択一必修として、履修合格しなければならない。  
注) 開講区分欄 「○●」=昼夜開講、「○」=昼間開講、「●」=夜間開講、「随時」=随時開講

2026 年度カリキュラム

情報メディア学専攻 修士課程 カリキュラムマップ

目的	分野	1 年		2 年						
		前期	後期	前期	後期					
専門性の涵養	専門研究	情報メディア学特別演習 I A ①	2	情報メディア学特別演習 I B ①	2	情報メディア学特別演習 II A ①	2	情報メディア学特別演習 II B ①	2	
		情報メディア学特別研究 I A ①	2	情報メディア学特別研究 I B ①	2	情報メディア学特別研究 II A ①	2	情報メディア学特別研究 II B ①	2	
						情報メディア学特別制作 A ①	2	情報メディア学特別制作 B ①	2	
	メディア・デザイン	インタラクティブ CG 特論	2	言語メディア特論	2	インタラクティブ CG 特論	2	言語メディア特論	2	
		ヒューマンメディアインターフェース特論	2	コミュニケーション音響学特論	2	ヒューマンメディアインターフェース特論	2	コミュニケーション音響学特論	2	
		共創・デザイン特論	2	感性工学特論	2	共創・デザイン特論	2	感性工学特論	2	
				インタラクシオンデザイン特論	2		インタラクシオンデザイン特論		2	
	情報・サイバーセキュリティ	サイバーセキュリティ基盤 I	2		サイバーセキュリティ基盤 I	2				
		サイバーセキュリティ基盤 II	2	ソフトウェアアーキテクチャ特論	2	サイバーセキュリティ基盤 II	2	ソフトウェアアーキテクチャ特論	2	
		オペレーティングシステム特論	2	デジタル・フォレンジック	2	オペレーティングシステム特論	2	デジタル・フォレンジック	2	
		セキュリティインテリジェンスと心理・倫理・法	2	情報セキュリティマネジメントとガバナンス	2	セキュリティインテリジェンスと心理・倫理・法	2	情報セキュリティマネジメントとガバナンス	2	
		サイバーディフェンス実践演習 (集中)	2	セキュアシステム設計・開発 (集中)	2	サイバーディフェンス実践演習 (集中)	2	セキュアシステム設計・開発 (集中)	2	
		知的計算システム特論	2	知能システム特論	2	知的計算システム特論	2	知能システム特論	2	
		IoT 特論	2	群知能モビリティ特論	2	IoT 特論	2	群知能モビリティ特論	2	
		知的システム設計特論	2		2	知的システム設計特論	2		2	
						計算機アーキテクチャ・高性能計算特論	2			
					情報数学特論	2				
	キャリア形成		インターンシップ		2	インターンシップ		2		
	学際性の涵養	「豊かな教養」科目	IT 最前線	2		2	IT 最前線	2		2
			IT とビジネスモデル特論 A	2	IT とビジネスモデル特論 B	2	IT とビジネスモデル特論 A	2	IT とビジネスモデル特論 B	2
都市デザイン特論			2	デジタル放送特論	2	都市デザイン特論	2	デジタル放送特論	2	
建築環境心理生理特論			2		2	建築環境心理生理特論	2		2	
国際性の涵養	研究者教養科目	技術経営学特論 (集中)	2		2	融合技術戦略特論 (集中)	2		2	
		海外サイエンス・プログラム		2	海外サイエンス・プログラム		2			
倫理観の涵養		アカデミック・プレゼンテーション	2	アカデミック・ライティング	2	(アカデミック・プレゼンテーション)	2	(アカデミック・ライティング)	2	
		研究者倫理	2	研究者倫理	2	(研究者倫理)	2	(研究者倫理)	2	
		科学技術社会論	2	科学技術社会論	2	科学技術社会論	2	科学技術社会論	2	

※ 2 年次科目で、網掛けの科目は、1・2 年配当、毎年開講科目

※①はリサーチワーク科目、それ以外はコースワーク科目。

新入生へ

学修案内

FMA

FMI

FR

履修案内

## 研究指導を担当する教員の専門分野と指導研究テーマ

### 《情報メディア学専攻》

教員氏名 居室 メールアドレス	専門分野	指導している主な研究テーマ
池田 雄介 1号館 11105A yusuke.ikeda@ mail.dendai.ac.jp	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション音響学</li> <li>・音響信号処理</li> <li>・空間音響</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三次元音場再現・制御技術</li> <li>・音場の計測技術</li> <li>・複合現実技術を用いた音場の可視化</li> </ul>
井ノ上 寛人 1号館 11402 h-inoue@mail. dendai.ac.jp	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感性工学</li> <li>・認知科学</li> <li>・UI/UX デザイン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルコンテンツの解析および感性評価</li> <li>・錯覚現象の定量評価およびその応用</li> <li>・3DCG ゲームのカメラワーク／視点制御技術</li> </ul>
岩井 将行 ☆ 1号館 11107A iwai@mail.dendai. ac.jp	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IoT</li> <li>・センサネットワーク</li> <li>・スマートスペース</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユビキタスコンピューティング</li> <li>・時空間・時系列データ処理</li> <li>・クラウドソーシング技術</li> <li>・ウェアラブル AI システム</li> <li>・屋外センサネットワーク</li> </ul>
大野 誠寛 1号館 11102A ohno@mail. dendai.ac.jp	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然言語処理</li> <li>・話し言葉処理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書き言葉・話し言葉の解析</li> <li>・テキスト作成支援</li> <li>・音声対話技術</li> </ul>
金子 直史 1号館 11104B naoshi.kaneko@ mail.dendai.ac.jp	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータビジョン</li> <li>・メディア情報処理</li> <li>・パターン認識</li> <li>・深層学習・機械学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢・体型・行動など人間の外見理解</li> <li>・環境の意味や構造の理解</li> <li>・発話からのジェスチャや表情の生成</li> <li>・画像・音声・テキストなどを統合したマルチモーダル処理</li> </ul>
川澄 正史 1号館 11103B kawasumi@mail. dendai.ac.jp	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生体情報解析</li> <li>・アクセシビリティ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション支援技術</li> <li>・視覚情報処理</li> <li>・歩行解析</li> <li>・生体情報のセンシング技術と応用</li> </ul>
小玉 周平 1号館 11106B s-kodama@mail. dendai.ac.jp	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータグラフィックス</li> <li>・ヒューマンコンピュータインタラクション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・XR (VR/AR/MR) 技術を用いたインタラクション</li> <li>・非写実的な映像生成技術</li> <li>・CG による創作活動・制作支援</li> </ul>

教員氏名 居室 メールアドレス	専門分野	指導している主な研究テーマ
佐藤 隆 1号館 11102B takashi.satou@ mail.dendai.ac.jp	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒューマンコンピュータインタラクション</li> <li>・映像メディアインタフェース</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フロントエンドエンジニアリング</li> <li>・映像の構造化と内容理解・要約・速覧</li> <li>・生体情報センシング応用</li> </ul>
寺田 真敏 1号館 11404B masato.terada@ mail.dendai.ac.jp	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットワークセキュリティ</li> <li>・情報セキュリティ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暗号理論とその高速実装</li> <li>・マルウェア、サイバー攻撃に関する解析</li> <li>・IoTとネットワークセキュリティ技術</li> <li>・脆弱性対策とインシデント対応支援技術</li> </ul>
服部 聖彦 1号館 11105B hattorik@mail. dendai.ac.jp	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AI応用</li> <li>・Edge AI</li> <li>・群ロボット</li> <li>・自動運転技術</li> <li>・深層強化学習</li> <li>・マルチエージェント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・深層強化学習を用いた協調自動運転</li> <li>・VR上での2.5次元プログラミング</li> <li>・群ロボットの協調行動獲得</li> <li>・Edge AIを用いた人物検知</li> </ul>
増田 英孝 1号館 11104A masuda@mail. dendai.ac.jp	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Web情報検索</li> <li>・ソーシャルメディア</li> <li>・インタラクティブシステム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Twitterの解析と情報抽出</li> <li>・Wikipediaの解析と情報抽出</li> <li>・図書館における自動レファレンスサービス</li> <li>・Webからの動向情報の抽出と可視化</li> </ul>
森谷 友昭 1号館 11106A moriya@mail. dendai.ac.jp	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータグラフィックス</li> <li>・画像処理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木材等の経年変化シミュレーション</li> <li>・GPUを活用した実時間CG</li> <li>・静止画上での動き表現</li> </ul>

☆：専攻主任

新入生へ
学修案内
F M A
<b>F M I</b>
F M R
履修案内

# ロボット・メカトロニクス学専攻

Robotics and Mechatronics

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

授業科目配当表

カリキュラムマップ

研究指導を担当する教員の専門分野と指導研究テーマ

## ロボット・メカトロニクス学専攻

### 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

ロボット・メカトロニクス学専攻は、学部教育で培ったメカトロニクス技術に関する知識をさらに発展させて、人類の知的行動空間を創生するロボット・メカトロニクス工学に関する科学技術の開発及びそれを発展する能力を修得させることを目的とします。

すなわち、ロボット・メカトロニクス学の「機械制御」「電気電子制御」「情報制御」部門の創造性を有する高度専門科学技術者を養成します。

### 学位授与の方針（ディプロマポリシー）

未来科学研究科のロボット・メカトロニクス学専攻は、人の生活空間環境の発展と維持に必要な技術で社会に貢献できる人材の育成を使命とし、所定の期間在学し（※）、必要な単位を修得し、次の学修成果を上げ、学位論文審査または特定の課題についての研究成果の審査に合格した者をロボット・メカトロニクス学の「電気電子工学」「機械工学」「情報工学」「制御工学」部門の基盤技術を相乗的に統合する創造性を有する高度専門技術者と認定し、修士の学位を授与します。

- (1) 実学尊重を旨として、ロボット・メカトロニクス学の高度な専門知識および実践に活かせる関連分野の基礎知識を持つ。
- (2) ロボット・メカトロニクス学に関わる課題を設定し、実践的かつ専門的な知識と技術を活用して、それを解決し発表できる。
- (3) 「技術は人なり」の精神のもと、高度専門技術者および研究者としての実践に必要な教養や倫理観、コミュニケーション力などを持つ。

※標準修業年限は、修士課程 2 年

### 教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

未来科学研究科のロボット・メカトロニクス学専攻では、学士課程で養った教養、専門知識を基礎として、研究科の教育モットーである「プロの能力、豊かな教養」を育み、ロボット・メカトロニクス学専攻のディプロマ・ポリシーで定めた資質・能力を修得させるために、ロボット工学やメカトロニクス学に関する技術の開発と、社会への応用展開を担う人材の養成を柱とし、以下の教育課程編成の方針に従って、科目、研究指導、教育プログラムを体系的に実施します。

- (1) ロボット・メカトロニクス学分野に応じた高度な専門知識および関連分野の基礎知識を身につける科目を設置します。
- (2) ロボット・メカトロニクス学の専門分野の課題を設定し、それを解決し発表できる実践力を身につけさせるために、国内外の文献調査、適切な実験・分析・解析など、指

- 導教員などとの議論、学会発表、学术论文発表などの研究指導を実施します。
- (3) ロボット・メカトロニクス学分野に応じた高度専門技術者および研究者として必要な教養や倫理観、コミュニケーション力などを身につける科目、もしくは教育プログラムを設置します。

2026・2027年度 授業科目配当表 ロボット・メカトロニクス学専攻 修士課程 2026年度入学者用カリキュラム

区分	科目名	開講年度 開講区分		コマ	単位数	必修 選択	配当年	配当期	授業形態 (主)	備考	DP 対応	教職
		2026	2027									
専門 研究	ロボット・メカトロニクス学特別研究Ⅰ	随時	随時	1	2	必	1	半期(前)	実験・実習		DP2	
	ロボット・メカトロニクス学特別研究Ⅱ	随時	随時	1	2	必	1	半期(後)	実験・実習		DP2	
	ロボット・メカトロニクス学特別研究Ⅲ	随時	随時	1	2	必	2	半期(前)	実験・実習		DP2	
	ロボット・メカトロニクス学特別研究Ⅳ	随時	随時	1	2	必	2	半期(後)	実験・実習		DP2	
	特別演習Ⅰ	随時	随時	1	1	必	1	半期(前)	演習		DP2	
	特別演習Ⅱ	随時	随時	1	1	必	1	半期(後)	演習		DP2	
	特別演習Ⅲ	随時	随時	1	1	必	2	半期(前)	演習		DP2	
	特別演習Ⅳ	随時	随時	1	1	必	2	半期(後)	演習		DP2	
メカ トロ ニクス 専門 科目	コンピュータネットワーク特論	●	●	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1	工業
	コンピュータシミュレーション特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1	工業
	最適化法特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1	工業
	非線形制御特論	○	●	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1	工業
	アドバンスドコントロール特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1	工業
	知的システム設計特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1	工業
	アドバンスドメカトロニクス特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	講義	メカトロニクス専門科目の区分か ら8単位以上必ず修得すること。	DP1	工業
	計測標準論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1	工業
	デジタルインターフェース特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1	工業
	機械設計プロセス特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1	工業
	電動モビリティ特論	●	●	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1	工業
	ロボットプランニング特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1	工業
	知能システム特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1	工業
ロボット設計特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1	工業	
「豊かな 教養」 科目	ITとビジネスモデル特論A	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1	
	ITとビジネスモデル特論B	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1	
	都市デザイン特論	○●	○●	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1	工業
	建築環境心理生理特論	●	●	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1	工業
	デジタル放送特論	●	●	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1	
	セキュリティインテリジェンスと心理・倫理・法	●	●	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1	
インターンシップ	○	○	随時	2	選	1・2	随時	実験・実習		DP2		
研究者 教養科目 (4単位 必修)	海外サイエンス・プログラム	○	○	集中	2	選	1・2	集中	演習	海外英語短期研修	DP3	
	アカデミック・プレゼンテーション	○●	○●	1	2	選	1	半期(前/後)	講義		DP3	
	アカデミック・ライティング	○●	○●	1	2	選	1	半期(前/後)	講義		DP3	
	研究者倫理	○●	○●	1	2	選	1	半期(前/後)	講義および演習	オープン科目	DP3	
	科学技術社会論	○●	○●	1	2	選	1・2	半期(前/後)	講義および演習	オープン科目	DP3	
	産業別企業研究特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP3	
	融合技術戦略特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	講義	集中講義	DP3	
	技術経営学特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	講義	集中講義	DP3	

注) 開講区分欄 「○●」= 昼夜開講、「○」= 昼間開講、「●」= 夜間開講、「随時」= 随時開講

2026 年度カリキュラム

ロボット・メカトロニクス学専攻 修士課程 カリキュラムマップ

目的	分野	1年		2年						
		前期	後期	前期	後期					
専門性の涵養	専門研究	ロボット・メカトロニクス学特別研究Ⅰ①	2	ロボット・メカトロニクス学特別研究Ⅱ①	2	ロボット・メカトロニクス学特別研究Ⅲ①	2	ロボット・メカトロニクス学特別研究Ⅳ①	2	
		特別演習Ⅰ①	1	特別演習Ⅱ①	1	特別演習Ⅲ①	1	特別演習Ⅳ①	1	
	メカトロニクス専門科目	コンピュータシミュレーション特論	2	コンピュータネットワーク特論	2	コンピュータシミュレーション特論	2	コンピュータネットワークワーク特論	2	
		非線形制御特論	2	最適化法特論	2	非線形制御特論	2	最適化法特論	2	
		アドバンスドメカトロニクス特論	2	アドバンスドコントロール特論	2	アドバンスドメカトロニクス特論	2	アドバンスドコントロール特論	2	
		機械設計プロセス特論	2	計測標準論	2	機械設計プロセス特論	2	計測標準論	2	
		電動モビリティ特論	2	デジタルインターフェース特論	2	電動モビリティ特論	2	デジタルインターフェース特論	2	
		ロボットプランニング特論	2	ロボット設計特論	2	ロボットプランニング特論	2	ロボット設計特論	2	
	知的システム設計特論	2	知能システム特論	2	知的システム設計特論	2	知能システム特論	2		
	キャリア形成	研究者教養科目	産業別企業研究特論	2			産業別企業研究特論	2		
			インターンシップ		2	インターンシップ		2		
	学際性の涵養	「豊かな教養」科目	ITとビジネスモデル特論A	2	ITとビジネスモデル特論B	2	ITとビジネスモデル特論A	2	ITとビジネスモデル特論B	2
セキュリティインテリジェンスと心理・倫理・法			2	デジタル放送特論	2	セキュリティインテリジェンスと心理・倫理・法	2	デジタル放送特論	2	
都市デザイン特論			2			都市デザイン特論	2			
建築環境心理生理特論			2			建築環境心理生理特論	2			
技術経営学特論(集中)		2			融合技術戦略特論(集中)	2				
国際性の涵養	研究者教養科目	海外サイエンス・プログラム		2	海外サイエンス・プログラム		2			
		アカデミック・プレゼンテーション		2						
倫理観の涵養	研究者教養科目	アカデミック・ライティング		2						
		研究者倫理		2						
		科学技術社会論		2	科学技術社会論		2			

※2年次科目で、網掛けの科目は、1・2年配当、毎年開講科目  
 ※①はリサーチワーク科目、それ以外はコースワーク科目。

## 研究指導を担当する教員の専門分野と指導研究テーマ

### 《ロボット・メカトロニクス学専攻》

教員氏名 居室 メールアドレス	専門分野	指導している主な研究テーマ
石川 潤 1号館 11014B ishikawa@mail. dendai.ac.jp	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロボティクス</li> <li>・制御工学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロボットの高機能モーションコントロール</li> <li>・福祉・医療分野のメカトロニクス制御技術</li> <li>・ナノスケールの高速・高精度サーボ技術</li> <li>・人道目的の対人地雷探知・除去技術</li> <li>・自動運転支援などの人間と機械の協働技術</li> </ul>
岩瀬 将美 1号館 11002A iwase@mail. dendai.ac.jp	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報駆動システム制御</li> <li>・制御工学</li> <li>・ロボティクス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車エンジンなどの非線形システムのモデリングと制御</li> <li>・筋電位などの生体信号に基づく福祉機器の開発と制御</li> <li>・一輪車・自転車などの不安定なパーソナルビークルの制御系設計と応用</li> <li>・ヨーヨーなどの技能的ロボットの開発と制御</li> <li>・蛇型ロボットなどの環境適応型ロボットの開発と制御</li> <li>・制御工学に基づくマルチコプター、センサ杭など農林業・防災への応用</li> </ul>
遠藤 信綱 1号館 11013B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロボティクス</li> <li>・人間機械システム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒューマノイドロボットの開発</li> <li>・機械式発話ロボットの開発</li> <li>・トレイグジスタンスシステムの開発</li> </ul>
釜道 紀浩 1号館 11001B nkama@mail. dendai.ac.jp	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制御工学</li> <li>・ソフトメカニクス</li> <li>・スマートマテリアル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフトアクチュエータ/センサの開発</li> <li>・機能性高分子を用いたソフトロボットの開発</li> <li>・生物模倣ロボットの運動制御</li> <li>・スマート農業実現のためのロボット開発</li> </ul>
佐藤 康之 1号館 11016A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制御工学</li> <li>・制御理論</li> <li>・ロボット工学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドローン・車両などの移動体の非線形制御</li> <li>・システムの安全性を保障する安全アシスト制御</li> <li>・不確かさを有する非線形システムの適応・学習制御</li> </ul>

教員氏名 居室 メールアドレス	専門分野	指導している主な研究テーマ
残 岡 忠 直 1号館 11015B zanma.tadanao@ mail.dendai.ac.jp	・システム工学 ・制御工学	・推定・予測・最適制御を融合した人間・通信を含むサイバー・フィジカルシステムのインテリジェントシステム設計 ・二次元分布データ計測のためのドローンの経路計画 ・未知移動体の動作推定に基づくドローンの追従制御 ・強化学習を用いた遠隔制御系のデータ送信スケジューリング ・マルコフ型データ欠落モデルに対するネットワーク化制御系の安定化 ・ネットワーク化制御系におけるデータ送信量の削減 ・モデル予測制御によるドローンの位置決め制御
汐 月 哲 夫 5号館 51017 shiotsuki@mail. dendai.ac.jp	・情報化制御システム	・ネットワーク化制御システムの解析と設計 ・双方向遠隔操作と力覚情報通信系 ・組込みシステムと実時間制御系設計 ・VR環境での映像酔いの研究 ・線形システムの解析と制御系設計
中 村 明 生 1号館 11013A nkmr-a@cck. dendai.ac.jp	・ロボット工学 ・コンピュータビジョン	・知覚情報処理（蚊種画像分類、面白キャプション生成、ファッション解析、大規模画像データベース自動生成、人物行動追跡・同定・解析） ・知能機械システム（地面性状認識、料理識別、交通信号機・車種識別） ・医療福祉 / 視覚障がい者支援システム（視覚-振動モダリティ変換を伴う歩行時環境知覚、ピクトグラム認識・屋内誘導）
花 崎 泉 4号館 40907B hana@mail. dendai.ac.jp	・信号処理 ・モデリング	・音声信号に基づく調音動作の可視化 ・表情筋電位信号による調音動作解析 ・声質変換フィルタの開発 ・日常生活における転倒回避動作の評価

教員氏名 居室 メールアドレス	専門分野	指導している主な研究テーマ
桧垣博章 ☆ 1号館 11014A h-hig@mail. dendai.ac.jp	・情報工学 ・コンピュータネットワーク	・アドホックネットワークのためのルーティング／データ配送プロトコル ・センサネットワーク ・VANET（自動車を含む高速移動体からなる無線マルチホップネットワーク）基盤技術 ・高信頼ネットワークアプリケーション実行手法 ・分散オペレーティングシステム構成手法 ・分散アルゴリズム
藤川太郎 1号館 11017A fujikawa@mail. dendai.ac.jp	・ロボット工学 ・バイオメテックス	・小型はばたきロボットの開発 ・昆虫の飛翔メカニズムの解明 ・トビヘビの滑空原理解明とこれに基づく索状飛行体の開発 ・自律型水中移動ロボットの開発
横山智紀 1号館 11015A t-yoko@mail. dendai.ac.jp	・パワーエレクトロニクス ・メカトロニクス	・FPGAを用いた電力変換器の高速デジタル制御 ・マイクロマウスロボットの開発 ・DRP / FPGAによる次世代コントローラ開発 ・グリーンエネルギーシステム ・系統連系システムの開発 ・ユニバーサルパワーモジュールの開発
吉本貴太郎 1号館 11016B kantaro@mail. dendai.ac.jp	・パワーエレクトロニクス ・自動車工学	・鉄道・自動車のトラクションコントロール ・モータの高性能制御 ・新エネルギー用直流直接型変換器 D-EPC

☆：専攻主任

※客員教授：篠田 義明

# 第3章 履修案内

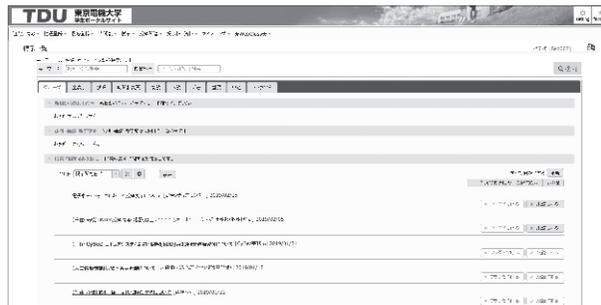
# 1 皆さんへの情報伝達・連絡の方法

皆さんへの告示、通知、呼出しなどは、学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA（以下、UNIPA（ユニパ））の掲示機能を通して連絡します。

授業の休講・補講、教室の臨時変更などの連絡をはじめ、履修登録（受講する科目の選択）や成績の発表、学生生活に必要な情報など、あらゆる連絡・手続きの手段として UNIPA を利用します。

自分で責任を持って、必ず毎日複数回 UNIPA を確認し、見落としや手続き漏れが生じないように注意して、充実した学生生活を送ってください。

UNIPA に関しては、第 3 章 19「学生ポータルサイト「DENDAI-UNIPA」」で案内していますので確認してください。



UNIPA 画面

UNIPA の掲示区分は以下の通りです。（運用が変更される場合、別途周知します。）

区分名称	内容
個別呼び出し	各部署から学籍番号指定で掲示を行う項目
教員からのお知らせ	教員からのお知らせ
休講・補講・教室変更	授業の休講・補講・教室変更
授業に関するお知らせ	履修・成績・進級・卒業・学力考査等
課外活動に関するお知らせ	学内外活動、学園祭、合同体育祭、スポーツ大会
奨学金に関するお知らせ	貸与奨学金、修学支援新制度、緊急給付金、学内各種奨学金、各種財団奨学金
学生生活に関するお知らせ	休学・退学手続き、学費延納手続き、住所変更等、修学指導、駐輪場利用手続き、ガイダンス、学研災、学研賠、加入証明書、在学証明書、健康診断証明書等、実習用定期、学生食堂、自動販売機、ウォータースタンド、教科書販売、勧誘、キャリアガイダンス、企業セミナー、資格取得等
健康相談室・学生相談室のお知らせ	健康診断、特殊健康診断、クラブ健診

なお、掲示タイトルには対象キャンパス名がついています。

- ・千住キャンパスの学生向け掲示： 千) 掲示タイトル
- ・鳩山キャンパスの学生向け掲示： 鳩) 掲示タイトル
- ・両キャンパスにまたがる掲示： 千/鳩) 掲示タイトル

※ただし、全キャンパス共通で開催するキャリア支援の行事等についてはキャンパス名を省略するなどの例外もあります。

## 2 履修登録

授業科目配当表、時間割表をもとに研究指導教員に確認のうえ、指示された方法に従い、履修登録を行ってください。履修登録をしていない科目（無届科目）の受講・受験は許されません。また、単位の認定も行われません。

履修登録の変更、追加は履修登録期間中、履修登録確認及び修正期間中に UNIPA で行ってください。履修登録の詳細（方法や期間）は、掲示等で案内します。

## 3 履修することができる授業科目

### ① 自分の所属する専攻の授業科目

### ② 他の専攻の授業科目

研究指導教員が教育研究の指導上必要と認めるときは、自分の所属専攻に配当されていない本学大学院の他専攻（工学研究科・理工学研究科・システムデザイン工学研究科の専攻も含む）の授業科目を履修することができます。

科目数の制限はありませんが、修了要件単位に算入することのできる単位は「特例扱いの科目（他大学院科目等）」と合わせて10単位までです。

### ③ 豊かな教養科目

未来科学研究科では以下の科目を「豊かな教養科目」として開講しています。

- 建築学専攻…「デジタル放送特論」「セキュリティインテリジェンスと心理・倫理・法」「ITとビジネスモデル特論A」「ITとビジネスモデル特論B」
- 情報メディア学専攻…「IT最前線」「デジタル放送特論」「ITとビジネスモデル特論A」「ITとビジネスモデル特論B」「都市デザイン特論」「建築環境心理生理特論」
- ロボット・メカトロニクス学専攻…「ITとビジネスモデル特論A」「ITとビジネスモデル特論B」「都市デザイン特論」「建築環境心理生理特論」「デジタル放送特論」「セキュリティインテリジェンスと心理・倫理・法」

### ④ 特例扱い

以下のものについては、所定の要件を充たせば本学で履修したものと同様に扱われます。他専攻の授業科目と合わせて10単位を上限として、修了要件に算入できます。研究指導教員と相談のうえ、東京千住キャンパス事務部（教務担当）で手続きを行い、未来科学研究科委員長の承認を得る必要があります。詳細は大学院学則第16条～第18条（別冊：大学院学生生活の手引きに掲載）を参照してください。

- (1) 他大学の大学院（東京理工系 4 大学・首都大学院コンソーシアム）または外国の大学院において履修した授業科目
- (2) 入学前の既修得単位
- (3) 他の大学院または研究所等における研究指導

#### ⑤ オープン科目

「研究者倫理」、「科学技術社会論」は東京千住キャンパスと埼玉鳩山キャンパスのどちらの学生も受講できるキャンパスを横断した科目です。受講形態は Zoom 等を利用した遠隔授業です。

受講を希望する学生は、必ずシラバスで受講方法を確認の上、履修登録を行ってください。

## 4 他大学院との単位互換協定に基づく授業科目履修の扱い

未来科学研究科では、大学間の学術交流を通じて大学院における教育・研究活動のより一層の充実を図るため、首都大学院コンソーシアム、東京理工系 4 大学と単位互換協定を結んでいます。

本協定により、希望者は所定の手続きをとることにより、各大学院の授業科目を受講することができます。これにより取得した単位は、本学未来科学研究科委員会が教育上有益と認めた場合、その取得した単位のうち 10 単位を超えない範囲で、未来科学研究科における授業科目の履修により取得したものとみなされます（大学院学則第 16 条）。この協定に基づく履修手続きの詳細は掲示によりお知らせします。科目によっては、有料となる場合があります。

協定大学

- ・ 首都大学院コンソーシアム大学  
共立女子大学、順天堂大学、専修大学、中央大学、東京理科大学、東洋大学、日本大学、法政大学、明治大学
- ・ 東京理工系 4 大学  
東京都市大学、工学院大学、芝浦工業大学

## 5 昼夜開講制の実施

未来科学研究科では大学院設置基準第 14 条に基づく教育方法の特例（いわゆる「昼夜開講制」）を実施しています。具体的には、授業科目によっては昼間 4 時制限の時間帯に加え夜間 D 5 時限（18：00～19：30）、D 6 時限（19：40～21：10）の時間帯を設けています。

# 6 授 業

## ① 授業科目・単位等

各専攻に開講されている授業科目及び単位数は「授業科目配当表」に掲載されている通りです。

## ② 学 期

前学期 4月1日～9月4日まで

後学期 9月5日～翌年3月31日まで

詳細はその年の学事日程を確認してください。

## ③ 授業時間

月曜日～金曜日				土曜日			
大 学 院		工学部 未来科学部 システムデザイン工学部		工学部第二部		左記の全所属	
						N1 限	9:00～10:30
						休憩 10 分	
1 限	9:20～10:50	1 限	9:20～10:50			N2 限	10:40～12:10
休憩 15 分		休憩 15 分				昼休憩 60 分	
2 限	11:05～12:35	2 限	11:05～12:35			N3 限	13:10～14:40
昼休憩 70 分		昼休憩 70 分				休憩 10 分	
3 限	13:45～15:15	3 限	13:45～15:15			N4 限	14:50～16:20
休憩 15 分		休憩 15 分				休憩 10 分	
4 限	15:30～17:00	4 限	15:30～17:00			N5 限	16:30～18:00
休憩 60 分		休憩 15 分		N5 限	16:30～18:00	N5 限	16:30～18:00
						休憩 10 分	
D5 限	18:00～19:30	5 限	17:15～18:45			休憩 10 分	
				N6 限	18:10～19:40	N6 限	18:10～19:40
休憩 10 分						休憩 10 分	
D6 限	19:40～21:10			N7 限	19:50～21:20	N7 限	19:50～21:20
						休憩 10 分	

## ④ 休講・補講・集中講義

### (1) 休講

学校行事や科目担当教員の都合等で授業が休講になる場合は、原則掲示にて連絡します。

## (2) 補講

授業回数が不足した場合には、補講を行います。補講の有無は科目担当教員によって指示され、日程は授業や掲示等で連絡します。

## (3) 集中講義

授業科目によっては、授業期間外に集中して授業を行うことがあります。

なお、詳細な日程については、決まり次第、掲示等で連絡します。

## ⑤ 交通機関のストライキ及び自然災害発生時等の授業措置について

交通機関のストライキ及び自然災害発生時等の授業措置については原則、下記のとりの対応となりますが、緊急事態の発生状況により別途授業措置が行われる場合があります。この授業措置については、大学発表の情報をポータルサイト及びメールにて周知します。また授業開始以後に発令された場合には、学内放送等でも最新情報を発信しますので注意してください。

### (1) 交通機関がストライキ等により運休の場合

首都圏 JR 各線及び東京千住キャンパス最寄駅（北千住駅・京成関屋駅）に乗り入れる私鉄・地下鉄各線がストライキ等により運休と報道された場合の授業の取扱いは、次のとおりです。

1) 午前 6 時において運休が解除されている場合は、平常通りの授業を行います。

2) 午前 6 時において運休の場合は、第 1・2 時限目の授業は休講となります。

3) 午前 9 時において運休の場合は、第 3・4 時限目の授業は休講となります。

4) 午後 3 時において運休の場合は、第 D5・D6 時限目の授業は休講となります。

※その他の私鉄のみがストライキ等により運休のときは、平常通り授業を行います。

### (2) 台風等による暴風警報が発令された場合

東京 23 区に暴風警報が発令されている場合の授業の取扱いは、次のとおりです。

1) 午前 6 時において暴風警報が解除されている場合は、平常通りの授業を行います。

2) 午前 6 時において暴風警報が発令されている場合は、第 1・2 時限目の授業は休講となります。

3) 午前 9 時において暴風警報が発令されている場合は、第 3・4 時限目の授業は休講となります。

4) 午後 3 時において暴風警報が発令されている場合は、第 D5・D6 時限目の授業は休講となります。

なお、暴風警報が発令されていない場合でも、気象状況は時間の経過とともに変化することがありますので、状況に応じて休講の措置をとる場合があります。大学発表の情報を必ず確認してください。

また、授業開始以後に暴風警報が発令された場合は、学内放送、ポータルサイト及びメールで授業措置の情報を発信します。

- (3) その他、緊急事態の状況によっては、前述にかかわらず別途の措置を講ずる場合があります。その場合には、直ちにポータルサイトへ掲載及びメール送信するので、各自確認してください。

## 7 シラバス（講義要目）

シラバスには、科目名、配当学年、配当期、単位数、必選区分、担当者名、目的概要、達成目標、関連科目、教科書名、評価方法、テーマ・内容、オフィスアワー、履修上の注意等の授業科目に関する情報が掲載されています。※

しっかりと授業科目の概要をつかんだ上で履修計画を作成するとともに、常時確認することにより確実に知識を積み重ねていってください。

なお、シラバスは UNIPA にて閲覧できます。

※ 2021 年度より、シラバスには科目ナンバリングによる科目番号を掲載しています。科目ナンバリングについての詳細は、以下の URL を参照してください。

[https://www.dendai.ac.jp/about/campuslife/syllabus/syllabus/tokyo\\_senju.html](https://www.dendai.ac.jp/about/campuslife/syllabus/syllabus/tokyo_senju.html)

## 8 学力考査及び成績評価

### ① 学力考査

学力考査は、原則としてその授業の終了する学期末あるいは、学年末に行われます。授業科目によっては、平常の成績またはレポート、口頭試問等をもって学力考査に代えることがあります。

なお、学力考査は履修登録した授業科目以外受験することはできません。

## ② 成績評価

成績は S・A・B・C 及び D の評価で表記されます。

成績評価は次の評点に対応します。

可否	成績評価	GP (Grade Point)	評点	成績評価基準
合格 (単位修得)	S	4	90点~100点	【極めて優秀】：科目の達成目標を十分に達成し、自在に応用できる水準にあり、より高度な内容に容易に進むことができる。
	A	3	80点~89点	【優秀】：科目の達成目標を達成し、応用できる水準にあり、より高度な内容に進むことができる。
	B	2	70点~79点	【妥当】：科目の達成目標を達成し、部分的ではあるが応用できる水準にある。しかし、より高度な内容に進むためには、自己学習をしておくことが望ましい。
	C	1	60点~69点	【最低限の達成】：科目の達成目標の最低水準に達している。しかし、習得した知識・スキルを応用し、より高度な内容に進むために十分な自己学習を要する。
不合格 (単位未修得)	D	0	0点~59点	科目の達成目標を満たしていない。
	—	0	放棄	試験などの学力考査を受験しない場合や、授業への出席状態が不十分な場合など、履修を途中で放棄したとみなされた。

※自由科目は、GPA 計算には含まれません。

※ R…認定された科目。GPA 計算には含まれません。

※成績証明書には D・—は表記されません。

※  $GPA = \frac{\text{各科目の単位数} \times \text{当該科目で得た GP (Grade Point)}}{\text{履修した科目の単位数の合計}}$

※ GPA は小数点第 4 位を四捨五入した値で、履修中の科目は含めません。

## ③ 成績通知

前年度末までの成績通知は 3 月頃に、前期末までの成績通知は後期開始前 9 月に行います。

成績通知の方法、期間は UNIPA にて知らせます。

# 9 研究指導実施体制

## ① 指導体制

(1) 学生の希望に基づき、研究指導教員を専攻が決定します。

(2) 研究指導教員は、学生との相談の上、入学後 1 ヶ月を目途に副研究指導教員 1 名を決定し、多角的な視野に立った指導を行う複数指導体制を整えます。場合によっては、研究指導教員の責任において、指導体制を変更することを可能とします。

(3) 副研究指導教員は、学生が所属する専攻もしくは本学大学院の他の研究科・専攻の研

究指導教員の資格を有する教員が担当します。

## ② 研究指導内容

- (1) 研究指導教員及び副研究指導教員は、研究指導計画に基づき、学生と面談を行い、修了までの研究計画の策定について指導・助言し、学生に計画書を作成させます。計画を踏まえて、研究指導内容および方法を明示します。また、履修計画についても指導・助言を行います。
- (2) 研究指導教員及び副研究指導教員は、修了に向けて定期的に研究活動の進捗状況を確認し、必要に応じて研究課題、研究方法、研究スケジュール等の見直し・修正を学生に指導・助言します。
- (3) 指導教員は、研究指導の一環として、必要に応じ国内外の学会等における学生の論文発表等の指導を実施します。
- (4) 本研究科が定める「修士論文またはこれに代わる研究成果の審査基準」に基づき、研究指導教員を含む複数の審査員が修士論文またはこれに代わる研究成果物の審査を行います。

## ③ 研究指導スケジュール

各専攻における研究指導スケジュールは次ページの通り。

### 未来科学研究科 研究指導スケジュール

学年	学期	建築学専攻	情報メディア学専攻	ロボット・メカトロニクス学専攻	
1年	前期	新入生ガイダンス 副研究指導教員の決定 4月 履修指導・研究計画の策定 研究指導教員・副研究指導教員との面談	新入生ガイダンス 副研究指導教員の決定 4月 履修指導・研究計画の策定 研究指導教員・副研究指導教員との面談	新入生ガイダンス 副研究指導教員の決定 4月 履修指導・研究計画の策定 研究指導教員・副研究指導教員との面談	
		5月	5月	5月	
		6月	6月 調査論文発表（5～7月口頭発表）	6月	
		7月	7月 論文調査レポート提出	7月	
	後期	9月	9月 研究計画書に基づく、研究指導教員・副研究指導教員との面談	9月 研究計画書に基づく、研究指導教員・副研究指導教員との面談	9月 研究計画書に基づく、研究指導教員・副研究指導教員との面談
		10月	研究計画書に基づく、研究指導教員・副研究指導教員との面談	10月	10月
		11月	11月 研究中間発表（10～12月口頭発表）	11月	11月
		12月	12月 論文調査レポート提出	12月	12月
		1月	1月	1月	1月
		2月	2月	2月	第1回中間発表会 研究計画書に基づく、研究指導教員・副研究指導教員との面談
		3月	3月	3月	3月
		4月	研究計画書に基づく、研究指導教員・副研究指導教員との面談	4月 研究計画書に基づく、研究指導教員・副研究指導教員との面談	4月
	2年	前期	5月	5月	5月
			6月	6月	6月
7月			7月 修士論文・修士設計中間発表会	7月 関連研究調査レポート提出	7月
8月			8月	8月	
後期		9月	9月	修士論文中間発表会（口頭発表） 研究計画書に基づく、研究指導教員・副研究指導教員との面談	第2回中間発表会 研究計画書に基づく、研究指導教員・副研究指導教員との面談
		10月	研究計画書に基づく、研究指導教員・副研究指導教員との面談	10月	10月
		11月	11月	11月	11月
		12月	12月 修士設計中間発表会	12月 関連研究調査レポート提出	12月
		1月	修士論文・修士設計予稿提出 修士論文・修士設計提出	1月 修士論文・研究成果予稿提出 修士論文・研究成果提出	1月 修士論文予稿提出 修士論文提出
		2月	修士論文・修士設計試問 （主査・副査による査読） 修士論文・修士設計発表会 （専攻独自口頭発表） 修士論文・修士設計発表会 （研究科ポスター発表）	修士論文・研究成果試問 （主査・副査による査読） 2月 修士論文・研究成果発表会 （専攻独自口頭発表） 修士論文・研究成果発表会 （研究科ポスター発表）	修士論文試問 （主査・副査による査読） 2月 修士論文発表会 （専攻独自口頭発表） 修士論文発表会 （研究科ポスター発表）
		3月	3月 保存用修士論文提出	3月 保存用修士論文提出	3月 保存用修士論文提出

※スケジュールは予定であり、変更となる場合があります。詳細は各専攻にて確認してください。

## 10 進級要件

### 【4月入学者】

1年生から2年生への進級には、休学期間を除き、12ヶ月以上在籍し、必要な学費及びその他費用を納入していることが必要です。2年生に進級するのは4月のみであり、9月に2年生に進級することはありません。

進級についての問い合わせは、学生支援センター（学生厚生担当）（2号館3階）に相談してください。

### 【9月入学者】

1年生から2年生への進級には、休学期間を除き、12ヶ月以上在籍し、必要な学費及びその他費用を納入していることが必要です。2年生に進級するのは9月のみであり、4月に2年生に進級することはありません。

進級についての問い合わせは、学生支援センター（学生厚生担当）（2号館3階）に相談してください。

## 11 修了要件

### ① 修了単位

課程を修了するためには、以下の全ての要件を満たす必要があります。

- (1) 修士課程に2年以上在学していること（優れた業績をあげた者については、1年以上の在学で修了を認めることができる）。
- (2) 自由科目を除き、各専攻が定める次の要件を満たす所要科目30単位以上を修得していること。
- (3) 所属する専攻に配当されている、「必修科目の単位の全部」及び「研究者教養科目の中から4単位以上」を修得していること。
- (4) 必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格すること。また、修士課程の目的に応じ適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果（研究成果報告書）の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。

**【建築学専攻】**

以下のプログラムから択一必修とし、入学時に研究指導教員との相談により決める。入学時に決定したプログラムは、在学中変更できない。

- |                        |        |
|------------------------|--------|
| (1) 高度専門プログラム（研究コース）   |        |
| 建築学特別研究Ⅰ（必修）           | 4単位    |
| 建築学特別研究Ⅱ（必修）           | 4単位    |
| 研究者教養科目（必修）            | 4単位    |
| その他の専門科目               | 18単位以上 |
| (2) 職能教育プログラム（スタジオコース） |        |
| 建築学特別設計Ⅰ（必修）           | 2単位    |
| 建築学特別設計Ⅱ（必修）           | 2単位    |
| 研究者教養科目（必修）            | 4単位    |
| その他の専門科目               | 22単位以上 |

その他の専門科目の単位数とは、P16に示す「豊かな教養」科目の単位数と、研究者教養科目の必修分である4単位を超過した単位数を合算した単位数とする。

**【情報メディア学専攻】**

以下のプログラムから択一必修とし、研究指導教員との相談により決める

- |                         |        |
|-------------------------|--------|
| (1) 高度専門プログラム・職能教育プログラム |        |
| 共通科目                    |        |
| 情報メディア学特別演習ⅠA（必修）       | 2単位    |
| 情報メディア学特別演習ⅠB（必修）       | 2単位    |
| 情報メディア学特別演習ⅡA（必修）       | 2単位    |
| 情報メディア学特別演習ⅡB（必修）       | 2単位    |
| 情報メディア学特別研究ⅠA（必修）       | 2単位    |
| 情報メディア学特別研究ⅠB（必修）       | 2単位    |
| 研究者教養科目（必修）             | 4単位    |
| (2) 高度専門プログラム           |        |
| 上記（1）の共通科目に加えて、         |        |
| 情報メディア学特別研究ⅡA（必修）       | 2単位    |
| 情報メディア学特別研究ⅡB（必修）       | 2単位    |
| その他の専門科目                | 10単位以上 |
| (3) 職能教育プログラム           |        |
| 上記（1）の共通科目に加えて、         |        |
| 情報メディア学特別制作A（必修）        | 2単位    |
| 情報メディア学特別制作B（必修）        | 2単位    |
| その他の専門科目                | 10単位以上 |

## 【ロボット・メカトロニクス学専攻】

(1) ロボット・メカトロニクス学特別研究Ⅰ～Ⅳ（必修）	各2単位
(2) 特別演習Ⅰ～Ⅳ（必修）	各1単位
(3) メカトロニクス専門科目	8単位以上
(4) 研究者教養科目（必修）	4単位

## ② 修士論文またはこれに代わる研究成果の審査基準

修士論文または特定課題の研究成果は、公表されているディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）に基づき、以下の基準で審査されます。なお、論文審査または特定の課題についての研究成果の審査に透明性、客観性を持たせるため研究成果の発表は、公開形式で行われ、研究指導教員を含む審査員による口答試問が行われます。

- (1) 学位申請者が取り組んだ研究または特定の課題をまとめたものであること。
- (2) 研究課題の設定が修士として妥当なものであり、研究遂行および論文作成または論文に代わる作品などの制作にあたっての問題意識が明確かつ倫理性を保持していること。
- (3) 設定した研究課題の研究に際し、適切な研究方法、調査・実験などを行い、それに基づく具体的な分析・考察がなされていること。
- (4) 論文または研究成果物の報告書の記述（本文、図表、文献、引用など）が適切であり、首尾一貫した論理構成となっていること。
- (5) 当該研究領域において、独自の価値（新規性、有用性など）、信頼性を有するものとなっていること。
- (6) 論文審査における学位論文などの発表と質疑に対する応答が、論理的かつ明確に行われていること。

## ③ 修了見込証明書

2年次に進級した学生は4月上旬より修了見込証明書を発行できます。

修了見込証明書の発行開始日については、掲示にて周知します。

※休学中は修了見込証明書が発行できません。必要に応じ、専攻に相談してください。

## ④ 早期修了条件について

「優れた業績をあげた者」については、1年間もしくは1.5年間の在学期間での修了を認めます。以下の条件を充足した学生について早期修了を認めます。希望する場合は、半年前までに研究指導教員に相談してください。

- (1) 1年間終了時、もしくは1.5年間終了時に修了することを希望していること。
- (2) 入学後の1年間もしくは1.5年間で、各専攻が定める要件を満たす所要科目30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文またはこれに代わる研究成果物の審査及び最終試験に合格すること。

- (3) 修士論文またはこれに代わる研究成果物関連科目の成績評価が「A」以上であること。  
 また、学術論文誌、学会誌等に1編以上の学術論文（査読付）の採録が確定していること。ただし、建築学専攻及び情報メディア学専攻においては、研究成果物を当該分野において公表し、権威ある賞を受けるなど高い評価を得た業績をもって学術論文（査読付）に代えることができます。この場合は、当該専攻主任により、学術論文（査読付）と同等とみなし、それに代えることができると認められる旨の文書提出が必要です。
- (4) 研究指導教員、専攻主任及び研究科委員長が早期修了に相応しいと判断した者。

⑤ 前期末修了（修了条件を満たさず修了延期になった者対象）

(1) 前期末修了の条件

2年次に合算して12ヶ月以上在学（休学期間は在学期間に含まない）した者を対象に前期末修了判定を実施します。判定時に休学中の者は対象としません。修了所要単位数など所定の修了条件を満たした時は、前期末修了（9月4日付）となります。

（所定の修了条件）

**修了条件は入学した年度に学生に提示している修了条件を適用する。**

(2) 前期末修了のための専門研究部門科目の取扱い

本人からの申し出があり、かつ専攻主任・担当教員が許可する場合は、必要となる専門研究部門科目の履修が可能です。

ただし、専門研究部門科目以外に未修得の必修科目がある場合は、未修得科目の開講期で履修することとし、本取扱いの対象外となります。

履修登録については東京千住キャンパス事務部（教務担当）へ問い合わせてください。

## 12 学 位

未来科学研究科を修了した者については、大学院学則、本学学位規程の定めるところにより、修士の学位が授与されます。

本研究科が授与できる学位の種類及びそれに付記する専攻分野は次のとおりです。

修士課程

建 築 学 専 攻	修士（工学）
情報メディア学専攻	修士（工学）
ロボット・メカトロニクス学専攻	修士（工学）

## 13 修士論文等の取扱い

修士論文またはこれに代わる研究成果の提出及び審査手順については「東京電機大学学位規程」(別冊：大学院学生生活の手引きに掲載)及びそれに基づく手順内規等があるので、未来科学研究科委員長、研究指導教員等の指示に従ってください。

修士論文またはこれに代わる研究成果の提出スケジュール等については、修了年次にUNIPA等で確認してください。

### ① 修士論文

#### 論文作成上の注意事項

- (1) 原稿はA4判とし、Word等で作成します。
- (2) 1ページ目は、表紙とします。「修士論文表紙見本」を参照し、作成してください。
- (3) 本文、資料は通しページにします。
- (4) 行数、文字数の指定はありませんが左右2センチの余白をとります。

#### 論文予稿の提出(参考：1月下旬まで)

- ① 原稿はA4判4枚とし、PDFファイルで提出します。
- ② レイアウトについては「修士論文予稿見本」を参照してください。  
詳細は修了年次生にUNIPAで案内をします。  
※予稿は、専攻毎に取りまとめ、修士論文及び研究成果発表会前に配布します。

#### 論文の提出(審査用)(参考：1月下旬まで)

- ① 研究指導教員、審査員に1部ずつ直接提出してください。
- ② 表紙は「修士論文表紙見本」を参照してください。

#### 論文の提出(大学保存用)(参考：2月下旬まで)

最終版1部をPDFファイルに変換し、提出してください。

詳細は修了年次生にUNIPAで案内をします。

※CD-ROM化して本学図書館で永久保存されます。

#### 論文審査

論文(審査用)提出後、研究指導教員、審査員による論文審査(通常口頭又は文書)が行われます。試問日程については、研究指導教員、審査員の指示を受けてください。

#### 修士論文及び研究成果発表会(参考：2月中旬)

発表会は、ポスターセッション形式で開催する予定です。発表者は1月より準備を開始してください。

発表方法等は、1月初旬にUNIPAにて修了年次生へ詳細を連絡します。

## ② 修士論文に代わる研究成果

### 研究成果報告書作成上の注意事項

研究成果物や研究成果報告書の提出形態は、研究テーマごとに異なりますので、研究指導教員の指示に従ってください。

なお、研究成果報告書作成に係わる注意事項は、次のとおりとなります。

- (1) 原稿は A4 判とし、Word 等で作成します。
- (2) 1 ページ目は、表紙とします。「研究成果報告書表紙見本」を参照し、作成してください。
- (3) 本文、資料は通しページにします。
- (4) 行数、文字数の指定はありませんが左右 2 センチの余白をとります。

### 研究成果報告書予稿の提出（参考：1 月下旬まで）

- ① 原稿は A4 判 4 枚とし、PDF ファイルで提出します。
- ② レイアウトについては「研究成果報告書予稿見本」を参照してください。  
詳細は修了年次生へ UNIPA で案内します。

※予稿は、専攻ごとに取りまとめ、修士論文及び研究成果発表会前に配布します。

### 研究成果報告書の提出（審査用）（参考：1 月下旬まで）

- ① 研究指導教員、審査員に 1 部ずつ直接提出してください。
- ② 表紙は「研究成果報告書表紙見本」を参照してください。

### 研究成果報告書の提出（大学保存用）（参考：2 月下旬まで）

最終版 1 部を PDF ファイルに変換し、提出してください。

詳細は修了年次生に UNIPA で案内します。

※ CD-ROM 化して本学図書館で永久保存されます。

### 研究成果審査

研究成果報告書（審査用）提出後、研究指導教員、審査員による審査（通常、口頭または文書）が行われます。

試問日程については、研究指導教員、審査員の指示を受けてください。

### 修士論文及び研究成果発表会（参考：2 月中旬）

発表会は、ポスターセッション形式で開催する予定です。発表者は 1 月より準備を開始してください。

発表方法等は、UNIPA にて 1 月初旬に発表者へ連絡します。

【修士論文予稿見本】  
【研究成果報告書予稿見本】

論文テーマ（和文名）  
論文テーマ（英文名）

学籍番号                      氏名  
研究指導教員                  教授    氏名

本 文

【修士論文表紙見本】  
【研究成果報告書表紙見本】

修 士 論 文 ※

論文テーマ（和文名）  
論文テーマ（英文名）

東京電機大学大学院未来科学研究科  
修士課程〇〇〇専攻  
学籍番号                      氏名  
研究指導教員                  教授    〇〇   〇〇

※研究成果報告書の場合は、「修士論文」を「研究成果報告書」としてください。

## 14 教育職員免許状

### ① 教職課程を履修するにあたって

教師になることを前提として教員免許状を取得しようという人のためにおかれているのが教職課程です。

教師という仕事は、いろいろな仕事の中でも、もっとも人間そのものと向き合う機会の多い職業のひとつです。無論、数学や理科、あるいは情報や工業関係の専門知識を中心とした深い学識が要求されます。しかしそれだけでは必ずしも充分ではなく、人間、とくに成長期にある若い人々に対する的確な理解と豊かな愛情が要求されます。それは教師の仕事が教室内での教科指導に限られるものではないことを考えれば、容易に理解されるでしょう。

そして、このことは、それだけ教師の仕事が非常に難しいものであり、知性と愛情さらには簡単にはくじけない強い意思が要求されるものであることを意味します。しかし、それはまた同時に、優れて人間的な深い喜びを得る機会の多い、やりがいのある素晴らしい仕事であることをも意味します。みなさんがこのような、創造的で魅力にあふれた職業につくための基礎を培うところが教職課程なのです。

教職関係科目を真摯に受講することが、みなさんを中学校や高等学校の教壇へと導くこと

でしょう。そして、その学習の過程で自分の教職への適性を十分に検討し、また確認することができるでしょう。

## ② 教職課程とは

教職課程とは、「教育職員免許法」に基づいて中学校や高等学校等の教員免許状を取得するために必要な授業科目を履修し、単位修得できるよう設置された課程です。

教職課程の履修希望者には、教員としての適格性、教職関係科目を十分に修得する能力、将来教職に就く意思が要求されますので、いいかげんな気持ちでは教職課程を修めるのは難しいといえます。

教職課程を修めようとする者は、必要な教職関係科目を履修し、単位を修得しなければなりません。

## ③ 東京電機大学が養成する教師像について

東京電機大学は、建学の精神である「実学尊重」と、教育・研究理念である「技術は人なり」を掲げ、技術を通して社会に貢献できる人材の育成を使命としています。この精神のもとに東京電機大学では、教師として必要な資質である、①学校教育に対する多角的理解、②教育に対する使命感や責任感、教育的愛情、③社会性や対人関係形成能力、④生徒理解や学級経営力、⑤専門教育を基盤とした教科内容等の高度な指導力を備えた教師を養成します。

また、⑥東京電機大学卒業の教師として、科学技術の実学的価値や面白さを教えることのできる教師、科学技術を支える高い倫理観を持った「学び続ける教師」を養成します。

## ④ 取得することのできる教育職員免許状

教育職員免許状には学部卒業を基礎資格とする「1種免許状」と大学院修士課程修了を基礎資格とする「専修免許状」があります。本研究科修士課程では次の免許教科の専修免許を取得することができます。

専攻	取得できる免許状の種類及び教科
建築学専攻	高等学校教諭専修免許状「工業」
情報メディア学専攻	高等学校教諭専修免許状「情報」
ロボット・メカトロニクス学専攻	高等学校教諭専修免許状「工業」

## ⑤ 専修免許状取得に必要な資格・条件等

次の2つの条件を満たさなくてはなりません。

- (1) 修士課程修了者または修士課程に1年以上在学し修士課程修了見込みの資格を有する者。

(2) すでに、同一教科の「高等学校教諭 1 種免許状」を取得しているか、または免許状を取得してはいるが取得に必要な単位を取得済みであること。

高等学校教諭 1 種免許状については、学部の教職課程要覧を参照してください。

※ 1 種免許状に必要な単位を取得していない場合は以下の⑤を参照

## ⑥ 専修免許状取得に必要な単位

それぞれの免許教科に係わる自専攻科目の単位が 24 単位以上必要です。

どの授業科目が教科科目の単位として認定されるかは次によります。

### (1) 「工業」の専修免許取得に必要な単位

建築学専攻、ロボット・メカトロニクス学専攻で開設されている授業科目で、自身の入学年度の適用カリキュラムの科目配当表上で、教職欄が「工業」である科目の単位は、高等学校教諭専修免許状「工業」を取得するために必要な 24 単位の中に算入されます。

### (2) 「情報」の専修免許取得に必要な単位

情報メディア学専攻で開設されている授業科目で、自身の入学年度の適用カリキュラムの科目配当表上で教職欄が「情報」である科目の単位は、高等学校教諭専修免許状「情報」を取得するために必要な 24 単位の中に算入されます。

※先取り履修して合格した科目が、自身の入学年度の適用カリキュラムでは廃止されている場合、当該科目の単位は、専修免許状取得に有効な単位としては認められません。

## ⑦ 免許状申請手続

### (1) 一括申請（修士課程修了時に専修免許状を取得）

大学で免許取得希望者の手続きを一括して東京都教育委員会に申請し、修了式の当日に各自へ教育職員免許状を交付します。手続き等の詳細については、UNIPA で配信される掲示の指示に従ってください。

### (2) 個人申請

修士課程修了後に個人で教育職員免許状を取得することもできます。住所地の都道府県教育委員会に問い合わせ、必要な手続きを行ってください。

## ⑧ 学部で 1 種教育職員免許状取得に必要な単位を取得していない者、又は学部で 1 種教育職員免許状取得に必要な単位を取得していても免許状をもっていない者

学部段階で 1 種教育職員免許状取得に必要な単位を取得していない者であっても、修士課程で教育職員免許状を取得する道があります。いろいろなケースがありますので、学年始めに必ず東京千住キャンパス事務部（教務担当）窓口にて個別に相談してください。

また、学部在学中に適用となっていた免許法が何らかの改正等で変わることがあります。その場合は取得しなければならない科目が増えたりすることもありますので注意してください。手続き等の詳細については、UNIPA で配信される掲示の指示に従ってください。

## 15 一級建築士資格要件（実務経験）

実務要件に関連する科目は下表の「①インターンシップ科目」、「②インターンシップ関連演習科目」、「③インターンシップ関連講義科目」に分類されます。①と②については、「設計・計画・意匠コース」、「構造コース」、「設備コース」の分野別に業務（実務）・演習の内容が変わります。また③については分野別に取得科目が決められています。

各コース（分野）を統一して取得する必要があり、コース（分野）を横断した①～③の単位取得は、実務経験としては認定されないので注意する必要があります。

なお、本要件は修了要件ではないため、別途確認が必要です。

実務要件年数別単位取得及び在学期間の条件（制限）	
実務要件 2年	①14単位以上、②8単位以下、③8単位以下の条件で、①～③の合計30単位以上修得。 在学2年以上。
実務要件 1年	①4単位以上、②8単位以下、③8単位以下の条件で、①～③の合計15単位以上修得。 在学1年以上。

実務要件に関連する科目		※（ ）内は単位数
①の科目 何単位でも実務要件単位に認定可能	<学外インターンシップ> インターンシップⅠ(2)、インターンシップⅡ(2)、インターンシップⅢ(4)、 インターンシップⅣ(4)、インターンシップⅤ(4)、インターンシップⅥ(4) <学内インターンシップ> 建築学実習Ⅰ(2)、建築学実習Ⅱ(2)、建築学実習Ⅲ(2)、建築学実習Ⅳ(2) ※スタジオコース履修者は「建築学実習Ⅰ～Ⅲ」を履修できます ※研究コース履修者は「建築学実習Ⅰ～Ⅳ」を履修できます	
②の科目 実務要件単位数は最大8単位が上限	建築技術・知識演習Ⅰ(2) 建築技術・知識演習Ⅱ(2) ※在学中に二級建築士を取得した場合は単位を認定します	
③の科目 実務要件単位数は最大8単位が上限	設計・計画・意匠コース(6科目)	都市デザイン特論(2)、建築意匠特論(2)、建築空間特論(2)、 近代建築特論(2)、地域施設計画特論(2)、建築環境心理生理特論(2)
	構造コース(5科目)	建築構造設計特論(2)、建築鋼構造特論(2)、 建築ハイブリッド構造特論(2)、 コンピューターによる骨組解析特論(2)、建築防災工学特論(2)
	設備コース(4科目)	建築空間特論(2)、建築環境形成技術特論(2)、 建築環境形成特論(2)、建築環境心理生理特論(2)、 ※スタジオコース履修者は原則設備分野を選択することはできません

## (1) 実務 2 年を目指す場合の履修例

## &lt;研究コースの例&gt;

## ① インターンシップ科目

建築学実習Ⅰ(2)+建築学実習Ⅱ(2)+建築学実習Ⅲ(2)+建築学実習Ⅳ(2)+インターンシップⅢ(4)+Ⅴ(4)+Ⅵ(4)=**20 単位**

## ② インターンシップ関連演習科目

建築技術・知識演習Ⅰ(2)+建築技術・知識演習Ⅱ(2)=**4 単位**

## ③ インターンシップ関連講義科目

- ・意匠コース：都市デザイン特論(2)+建築意匠特論(2)+建築空間特論(2)+近代建築特論(2)=**8 単位**
- ・構造コース：建築ハイブリッド構造特論(2)+建築構造設計特論(2)+コンピューターによる骨組解析特論(2)+建築鋼構造特論(2)=**8 単位**
- ・設備コース：建築空間特論(2)+建築環境形成技術特論(2)+建築環境形成特論(2)+建築環境心理生理特論(2)=**8 単位**

**①20 単位+②4 単位+③8 単位=32 単位 (>30 単位)**

## &lt;スタジオコースの例&gt;

## ① インターンシップ科目

建築学実習Ⅰ(2)+建築学実習Ⅱ(2)+建築学実習Ⅲ(2)+インターンシップⅠ(2)+Ⅱ(2)+Ⅲ(4)+Ⅳ(4)=**18 単位**

## ② インターンシップ関連演習科目

建築技術・知識演習Ⅰ(2)+建築技術・知識演習Ⅱ(2)=**4 単位**

## ③ インターンシップ関連講義科目

- ・意匠コース：都市デザイン特論(2)+建築意匠特論(2)+建築空間特論(2)+近代建築特論(2)=**8 単位**
- ・構造コース：建築ハイブリッド構造特論(2)+建築構造設計特論(2)+コンピューターによる骨組解析特論(2)+建築鋼構造特論(2)=**8 単位**

\* スタジオコース履修者は設備分野を選択することはできません。

**①18 単位+②4 単位+③8 単位=30 単位 (>=30 単位)**

## (2) 実務 1 年を目指す場合の履修例

## &lt;研究コースの例&gt;

## ① インターンシップ科目

建築学実習Ⅰ(2)+インターンシップⅠ(2)=**4 単位**

## ② インターンシップ関連演習科目

建築技術・知識演習Ⅰ(2)+建築技術・知識演習Ⅱ(2)=**4 単位**

## ③ インターンシップ関連講義科目

- ・意匠コース：都市デザイン特論(2)+建築意匠特論(2)+建築空間特論(2)+近代建築特論(2)=**8 単位**

- ・ 構造コース：建築ハイブリッド構造特論(2)+建築構造設計特論(2)+コンピューターによる骨組解析特論(2)+建築鋼構造特論(2)=**8単位**
  - ・ 設備コース：建築空間特論(2)+建築環境形成技術特論(2)+建築環境形成特論(2)+建築環境心理生理特論(2)=**8単位**
- ①4単位+②4単位+③8単位=16単位 (>=15単位)**

<スタジオコースの例>

①インターンシップ科目

建築学実習Ⅰ(2)+建築学実習Ⅱ(2)+建築学実習Ⅲ(2)=**6単位**

②インターンシップ関連演習科目

建築技術・知識演習Ⅰ(2)+建築技術・知識演習Ⅱ(2)=**4単位**

③インターンシップ関連講義科目

- ・ 意匠コース：都市デザイン特論(2)+建築意匠特論(2)+建築空間特論(2)=**6単位**
- ・ 構造コース：建築ハイブリッド構造特論(2)+建築鋼構造特論(2)+建築構造設計特論(2)=**6単位**

\*スタジオコース履修者は設備分野を選択することはできません。

**①6単位+②4単位+③6単位=16単位 (>15単位)**

## 16 先端科学技術研究科博士課程（後期）進学

先端科学技術研究科博士課程（後期）に進学を希望する者は、できるだけ多くの科目を幅広く履修しておくことが望まれます。

なお、詳細は先端科学技術研究科博士課程（後期）の入試募集要項を参照してください。

## 17 留学・海外語学研修

本学では、海外の協定校等での留学プログラムに参加することを推奨しています。3週間程度の語学留学から1年未満の長期留学までさまざまな形態があるので、事前の準備等、よく検討の上、計画を立ててください。

### (1) 留学の種類

#### 1) 海外留学（単位認定あり）

- ①ウィスコンシン大学ミルウォーキー校（アメリカ）、8月に実施（約2週間）、募集は4月頃
- ②クイーンズランド工科大学（オーストラリア）、2月～3月に実施（約3週間）、募集は10月頃

※年度により実施の有無や時期等は変更になる場合があります。

その他、単位認定のない学部生を対象とした研修がありますが、応募者数等により大学院生の派遣も検討しますので、国際センターにお問い合わせください。

## 2) 協定校留学

本学と外国の大学との学生交流協定によって留学する制度です。協定校への留学に関する要望については個別に対応していますので、国際センターにお問い合わせをしてください。

## 3) 認定校留学

留学希望者本人が外国の大学等から留学または受入れ許可を取り、本学がこれを許可し、留学する制度です。

※本学では学生諸君が在学中に海外の大学に留学することを制度として認めています。

留学とは外国の大学またはこれに相当する高等教育機関に一定期間在学して教育を受けることを言います。事前に所定の申請手続きを行い留学と認められる必要があり、事前の許可を受けずに渡航したり、相手先大学の正規教育課程以外のコースで学んだりしても、本学からの留学とは認められないのでご注意ください。

## (2) 海外留学プログラムへの参加にあたり

留学や海外語学研修に関する相談については、国際センターで随時対応しています。

### 1) 海外短期留学プログラム

これまでに実施した語学留学の募集要項や参加した学生の報告等を国際センターホームページ上 (<https://www.dendai.ac.jp/about/international/>) で閲覧できますので、準備にあたってはこれらを参考にしてください。

### 2) 長期留学

長期の留学を希望する場合には、語学力の向上を含めた準備が重要ですので十分に留意してください。特に英語圏に留学する場合は、IELTS (International English Language Testing System) などの受験とそのスコアが必要です。留学先により英語要件があり、それを満たすためには通常1年以上の準備期間が必要です。

また留学予定先大学等において履修を希望する授業科目や本学の履修などについて、留学前に学科及び東京千住キャンパス事務部の履修指導を受けてください。

## (3) 国際センターについて

「国際センター」ではTDUの特色を活かした国際交流の実践に向けて、さまざまな支援を行っています。

国際センター千住ラウンジ (東京千住キャンパス 1号館 4階 10415号室 10時~17時)

「国際センター千住ラウンジ」では、常駐するスタッフに留学や大学生活についての相談ができます。また、留学生と日本人学生が交流できるスペースを設けています。

※今般の世界を取りまく情勢等により、海外留学プログラムが変更、延期、中止となる場合があります。詳しくは、国際センターまでお問い合わせください。

## 18 連携大学院協定研究所

本学大学院では、教育研究の充実を図るとともに、学術及び科学技術の発展に寄与することを目的とし、大学院生の研究指導を以下の研究機関と連携して行っています。

研究機関名
国立研究開発法人 理化学研究所
国立研究開発法人 産業技術総合研究所
一般財団法人 電力中央研究所
国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構
国立研究開発法人 海上技術安全研究所
国立研究開発法人 情報通信研究機構
国立研究開発法人 物質・材料研究機構
日本放送協会放送技術研究所
独立行政法人 労働者健康安全機構
日本電信電話株式会社 NTT 物性科学基礎研究所
公益財団法人 相模中央化学研究所

## 19 履修証明プログラム

本学では、文部科学省の2014年度「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」に「国際化サイバーセキュリティ学特別コース（通称：CySec）」の設立を申請し、採択されました。本コースは、産業界を先導するサイバーセキュリティの専門家の養成を目的とした履修証明プログラムであり、社会人等学外から受講者を募集し、当該コース修了者に、履修証明書を交付することとしています。

2015年度より、履修証明プログラムとして、本コースの以下の7科目を、未来科学研究科情報メディア学専攻に設置しています。

これらの科目は、在学学生も履修することが可能で他専攻履修・他研究科履修にも対応しています。

なお、履修証明プログラムを修了するためには、通常の履修申告とは別にコース登録の申請が必要です。詳細は、東京千住キャンパス事務部（教務担当）窓口で問い合わせてください。

対象科目

- 「サイバーセキュリティ基盤Ⅰ」
- 「サイバーセキュリティ基盤Ⅱ」
- 「サイバーディフェンス実践演習」（自由科目）
- 「セキュリティインテリジェンスと心理・倫理・法」
- 「デジタル・フォレンジック」
- 「情報セキュリティマネジメントとガバナンス」（自由科目）
- 「セキュアシステム設計・開発」（自由科目）

## 20 創造工学ユニット

社会の要請に応えられる科学者・技術者としての「広い視野に立って、多面的に事象を捉えることができる時代に適した学際的な力」を身に付けることを目的として、2021年度より、「創造工学ユニット」を設置いたしました。

本ユニットでは、社会的ニーズの高い研究領域として本学が定めた研究重点領域4分野に含まれる内容を学ぶことができます。

ユニット修了者には、修了認定証を発行いたします（履修申告とは別に、ユニット（プログラム）の申し込み（原則、入学した学期の申し込み）が必要です。申込期間は履修申告期間です。）。

ユニット（プログラム）を修了するには、対象科目から8単位以上の単位を修得することが条件となります。ただし、1科目以上は他専攻配当科目の単位を修得していることが必須となります。

（他専攻配当科目の単位も修士課程修了要件に含まれます（修了要件に参入することのできる単位は、「特例扱いの科目（他大学院科目等）」と合わせて10単位までです。詳細はP39を参照してください）。

2026年度は、以下の3ユニット（プログラム）に申し込むことができます。

### ①生体医工学ユニット 生体医工学実用化推進プログラム

目的概要	高度化、複雑化する医療機器の機器開発の観点から、生体医工学に必要な医学と工学に関する知識を身に着ける。 また、「ものづくり」において、個別医療機器の原理・構造、操作・運用や、障害者および高齢者の生活支援システム・機器の技術的知識、医療施設や高齢者施設のシステムの安心安全（保守・管理）に対する考え方を学び、医療機器の実用化・国際展開に必要な技術的知識を習得する。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機器のものづくりの技術的知識を身につける。</li> <li>・医療機器の企画から実用化までの各ステップに関する知識を身につける。</li> <li>・医療機器に関する国際情勢・海外展開に関する知識を身につける。</li> <li>・人間の情報について理解する。</li> <li>・メカトロニクスの技術的知識を身につける。</li> <li>・システムの安全性の評価法を身につける。</li> <li>・高齢者・障害者の生活環境の計画に必要な基礎的知識や配慮事項などを知る。</li> </ul>

#### プログラム対象科目

科目名	キャンパス	配当専攻	単位数	配当期	開講年度
バイオメディカル・グローバリゼーション・エンジニアリング特論	東京千住	工学研究科 全専攻	2	前期	毎年度
国際化バイオメディカル・エンジニアリング特論 ※	埼玉鳩山	理工学研究科 全専攻			
先端バイオメディカル・エンジニアリング特論	東京千住 埼玉鳩山	理工学研究科 全専攻	2	後期	毎年度
医用工学・医療福祉機器特論	東京千住	KMJ/KMK/KMF	2	前期	毎年度
人間支援工学特論	東京千住	KMK	2	後期	毎年度
医用電子計測特論	東京千住	KMJ/KMC	2	前期	毎年度
レギュラトリーサイエンス特論	埼玉鳩山	RME	2	前期	毎年度
医用電子機械工学特論	埼玉鳩山	RME	2	後期	毎年度
生体情報工学特論	埼玉鳩山	RME	2	前期	偶数年度

※「バイオメディカル・グローバリゼーション・エンジニアリング特論」と「国際化バイオメディカル・エンジニアリング特論」は、同時開講

## ②情報ユニット サービスデザイン高度化のための先進情報工学プログラム

目的概要	人工知能、ビックデータ、IoT デバイスに関する技術が急速に発展し、産業応用も進んでいる中で、次世代技術を担う人材の養成が求められている。 これらの技術は、科学、工学、ビジネスのさまざまな分野において高い汎用性と強力な武器となりつつある。 既存学問領域の枠を超え、広い視野から問題を解決するためのスキルを磨く。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>人工知能、ビックデータ、IoT デバイスに関する基礎知識、基礎技術</li> <li>上記技術の適用先、サービスに合わせたシステム設計、モデリング、ソフトウェア開発</li> <li>センサデバイス等のIoT 機器のデザインとリアルタイムデータの処理技術</li> <li>データ科学、実験科学の基本技法</li> </ul>

## プログラム対象科目

科目名	キャンパス	配当専攻	単位数	配当期	開講年度
IoT 特論	東京千住	FMI	2	前期	毎年度
機械設計プロセス特論	東京千住	FMR	2	前期	毎年度
最適化法特論	東京千住	FMR	2	後期	毎年度
知能システム特論	東京千住	FMI/FMR	2	後期	毎年度
信号処理応用特論	東京千住	AMJ/AMD	2	後期	奇数年度
マルチメディア工学特論	東京千住	AMJ/AMD	2	後期	奇数年度
システムデザイン工学先端 FBL-A (前田教授担当プロジェクト)	東京千住	AMJ/AMD	2	前期	毎年度
システムデザイン工学先端 FBL-B (前田教授担当プロジェクト)	東京千住	AMJ/AMD	2	後期	毎年度
計算機アーキテクチャ・高性能 計算特論	東京千住	KMC/FMI	2	前期	奇数年度
図形処理特論	埼玉鳩山	RMD	2	後期	偶数年度
組込みシステム特論	埼玉鳩山	RMD	2	前期	毎年度
言語・非言語情報特論	埼玉鳩山	RMD	2	後期	毎年度
音楽とデザイン特論	埼玉鳩山	RMD	2	前期	毎年度

### ③材料工学ユニット 材料工学実用化推進プログラム

<p>目的概要</p>	<p>高度でかつ持続可能性の高い社会を実現する科学技術体系の観点から、材料工学に必要な理学と工学に関する素養を身につける。 また、「物理、化学、力学、計算」を基本として、応用領域としての「安全・安心」、「エネルギー・環境」、「情報」、「生体医工学」における材料の重要性とその課題に対する考え方を学び、知識と経験の集積および科学的探索手法によって、イノベーション創出を目指した学際領域への展開に必要な知識を習得する。</p>
<p>達成目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料工学に関するものづくりの技術的知識を身につける。</li> <li>・材料の評価法を身につける。</li> <li>・材料の構造・機能デザインの技術的知識を身につける。</li> <li>・ものづくり科学の実用化に関する知識を身につける。</li> <li>・材料開発に関する国際情勢・海外展開に関する知識を身につける。</li> <li>・社会情勢の変化に連動して、材料の構造デザインに必要な基礎的知識や配慮事項などを知る。</li> </ul>

#### プログラム対象科目

科目名	キャンパス	配当専攻	単位数	配当期	開講年度
半導体デバイス工学特論	東京千住	KMJ/KMS	2	後期	毎年度
半導体評価技術特論	東京千住	KMJ/KMH/KMS	2	後期	奇数年度
薄膜物性特論	東京千住	KMS	2	後期	偶数年度
分析化学特論	東京千住	KMS	2	後期	偶数年度
分子触媒化学特論	東京千住	KMS	2	前期	偶数年度
電気化学特論	埼玉鳩山	RMU	2	前期	奇数年度
有機合成化学特論	埼玉鳩山	RMU	2	前期	偶数年度
物理学特論 C	埼玉鳩山	RMU	2	前期	偶数年度
生体高分子特論	埼玉鳩山	RMB	2	後期	毎年度
材料力学特論	埼玉鳩山	RMM	2	前期	奇数年度
先端材料特論	埼玉鳩山	RMM	2	後期	奇数年度
薄膜材料工学特論	埼玉鳩山	RME	2	前期	偶数年度
パワーエレクトロニクス特論	埼玉鳩山	RME	2	後期	奇数年度

# 21 学生ポータルサイト 「DENDAI – UNIPA」

## 21-1 学生ポータルサイト「DENDAI – UNIPA」について

学生ポータルサイト「DENDAI – UNIPA」は、履修登録・時間割確認・シラバス閲覧・掲示確認・成績照会など、様々な機能を使用することができるシステムです。

本学で学生生活を送るためには必ず使用することになります。

また、個別の学生呼出しなども「DENDAI – UNIPA」上で行いますので、1日に複数回、確認するよう心がけてください。

なお、学生の時間割確認・成績照会・出席情報については、保証人も閲覧できるように、入学年度の前期成績通知までにIDを発行しています。

## 21-2 「DENDAI – UNIPA」の閲覧環境について

「DENDAI – UNIPA」は、インターネットに接続可能なパソコン・スマートフォンであれば、学内外を問わず自由に閲覧することができます。

※本文中に記載の「画面デザイン」や「メニュー（機能）構成」等は今後変更になる場合があります。

### (1) PCからの利用

#### 【動作環境】

ディスプレイ	FullHD（1920x1080）以上推奨
OS	Windows 10, 11、macOS 10.14.x 以上
ブラウザ	Microsoft Edge（※）、Mozilla Firefox（※）、Chrome（※）、Safari（※）

※ 最新版の利用を推奨します。

### (2) スマートフォンからの利用

休補講のお知らせや成績照会といった「DENDAI-UNIPA」の主要機能をスマートフォンからも利用できます。ただし、「授業時間割表」等の一部機能は利用出来ませんので、画面に表示されない機能はPCを利用してください。

また、履修登録については、画面表示サイズ・動作確認等の観点から、PCで行ってください。

#### 【動作環境】

OS	iOS 12 以上、Android 8.0 以上
ブラウザ	iOS：Safari（※2）、Android：Chrome（※2）

※1 Android 環境でのファイルダウンロードの可否は端末により異なります。（一部の端末では、添付ファイルのダウンロードが出来ない場合があります）

※2 最新版の利用を推奨します。

【注意事項】

スマートフォンから利用する場合、以下の操作は行わないでください。

- PC を含む複数端末からの同時ログイン
- ブラウザの戻るボタンの使用
- PC からのスマートフォンサイトの操作
- スマートフォンからの PC 用サイトの操作

21-3 「DENDAI – UNIPA」 へのアクセス・ログイン方法

1 学生ポータルサイト「DENDAI – UNIPA」へアクセスします。

<https://portal.sa.dendai.ac.jp>



2 ログイン画面が開きます。

3 User ID に「学籍番号」を入力、PassWord に「パスワード」を入力し、「LOGIN」ボタンをクリックします。(図 1)



- ※ ログインには本学のネットワークを利用するための ID (学籍番号) およびパスワードが必要です (例: 26kmj99 ※学籍番号の英字部分は小文字で入力してください)。
- ※ 新入生への初期パスワードは入学時にお知らせします。

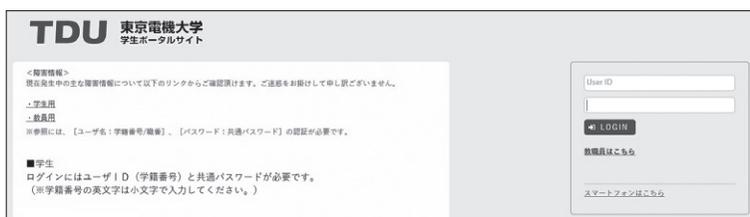


図 1 ログイン画面

## 21-4 「DENDAI – UNIPA」の操作方法

詳しい操作方法は、UNIPA メニューの「資料／サイトリンク」タブにある「UNIPA 使用方法」より確認してください。(図 2) 最新版のマニュアルにアクセスすることができます。

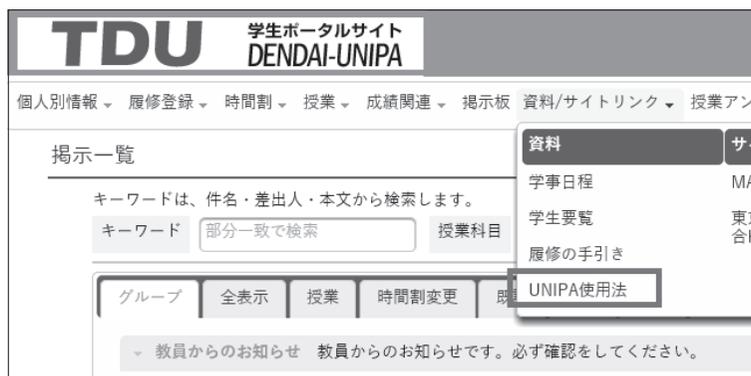


図 2 UNIPA 使用法

右記の QR コードからも UNIPA のマニュアル（東京千住キャンパス学生用）にアクセスすることができます。

※閲覧には、BOX（本学で使用しているクラウド型のオンラインストレージサービス）にログインする必要があります。学籍番号のメールアドレスと共通パスワードでログインしてください。



マニュアルに記載されている項目は以下の通りです。

- ・「DENDAI-UNIPA」について
- ・アクセス、ログインと画面構成
- ・掲示の確認・時間割について
- ・シラバス照会
- ・履修登録・抽選登録
- ・授業教室の確認方法について
- ・出席確認について
- ・個人情報について
- ・成績確認、卒業見込、進級見込判定
- ・メール設定について

上記はいずれも学生生活を送る上で極めて重要な事項であり、確認するには UNIPA を正しく操作する必要がありますので、マニュアルは必ず一読するようにしてください。

特に問い合わせの多い、卒業見込・進級見込の判定方法、授業教室や出席の確認方法、シラバス照会方法もこちらで案内しています。また、シラバス照会時に便利な「ふせん機能」についても紹介しています。自身に関係の深い授業科目のシラバスに「ふせんを貼る」ようにしておけば、ふせんを貼った授業科目のシラバスのみを表示させることができ、授業教室等の確認が素早く効率的に行えるようになります。

## 22 e-Learning システム WebClass

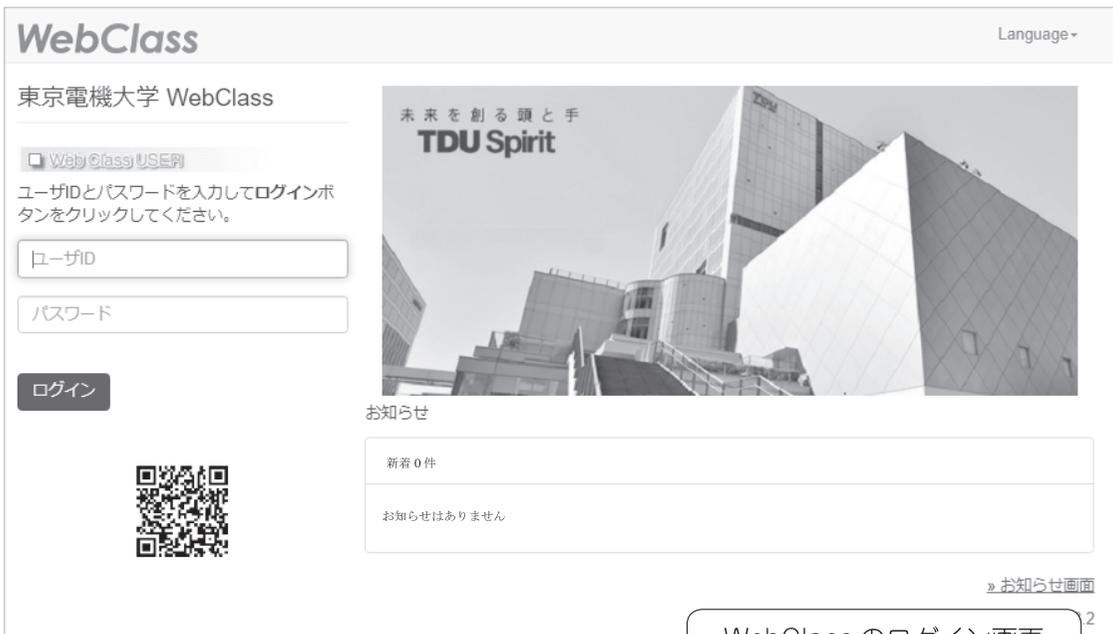
WebClass は、ネットワークを利用して、授業に必要な資料の提示・配布、テストの実行と採点、レポートの提出や成績の確認が行えると共に、掲示板機能を利用し、学生同士や教員と学生間でのコミュニケーション機能があります。PC はもちろん、タブレットやスマートフォンからも利用できます。以下の URL から、「WebClass」を選択してください。

URL: <https://els.sa.dendai.ac.jp/>

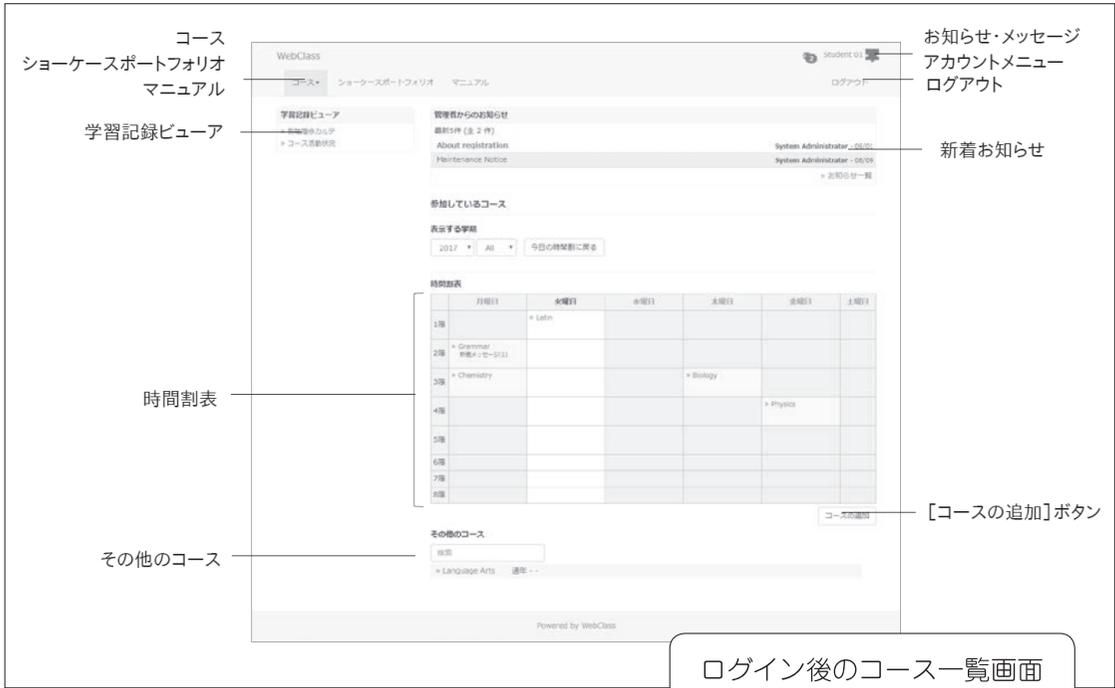
主な機能は以下の通りです。

- |   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の配布や提示</li> <li>・テスト / アンケートの実施</li> <li>・電子掲示板（質問場所の提供）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・チャット</li> <li>・メッセージ機能</li> </ul> |
|---|---|

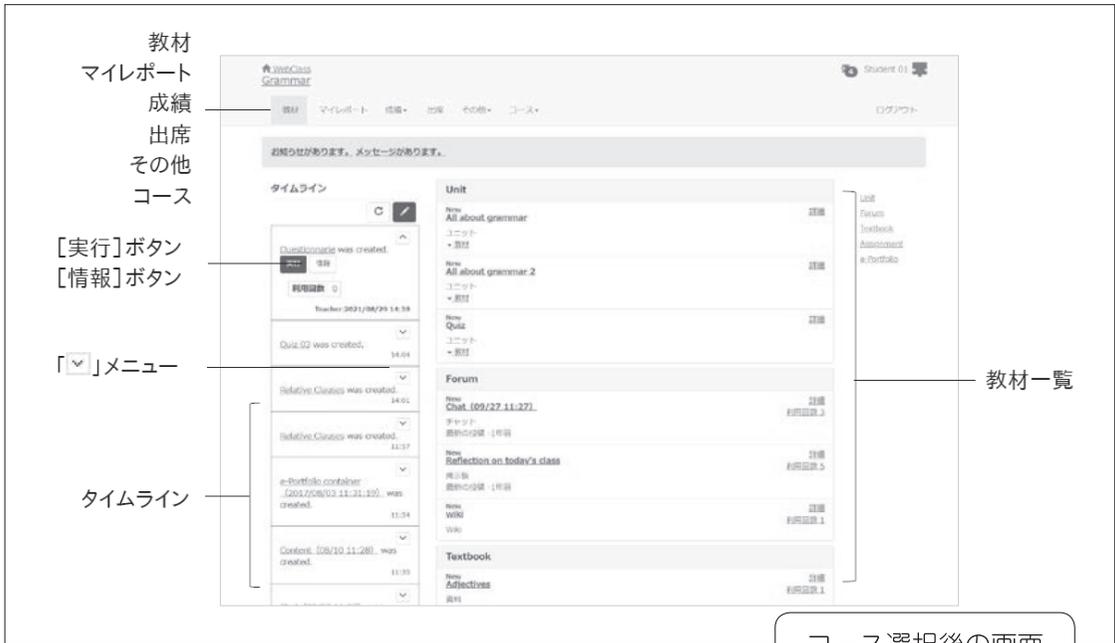
※本文中に記載の画面デザインやメニュー（機能）構成等は、今後変更になる場合があります。



ログイン画面で、大学共通認証のユーザ ID とパスワード入力して「ログイン」ボタンをクリックします。WebClass へのログインに成功すると、このユーザが所属しているコース一覧と新着情報が表示されます。WebClass のコースとは、授業科目のことです。履修登録してある科目がカレンダーの形式で表示されます。科目名をクリックすることで、コース内へ移動し、「コースメニュー画面」が表示されます。画面上側に「機能メニュー」、画面右側に「教材一覧」が表示されます。



ログイン後のコース一覧画面



コース選択後の画面

「新着お知らせ」には、事務部や担当教員からの履修者全員または個別の連絡事項が表示されます。

「教材一覧」には授業で使用する教材が表示されます。「会議室」では質問や意見を投稿できる掲示板やリアルタイムでの会話が可能なチャット機能があります。「資料」からは授業で使用される授業用スライドや参考資料の閲覧ができ、予習・復習や授業時のテキストとして

利用できます。「テスト / アンケート」ではレポート提出やアンケート、学力考査や小テスト、問題演習が実施できます。

各ページ右上アカウントメニューの「マニュアル」をクリックすることにより、PDF形式でダウンロードできます。

## 23 ビデオコミュニケーションプラットフォーム「Zoom」

### 23-1 ビデオコミュニケーションプラットフォーム「Zoom」について

Zoom は、インターネット経由で学内外どこにいても、ビデオや音声、チャットや画面共有など、双方向のコミュニケーションが可能です。

遠隔講義や授業配信だけでなく、従来の講義型授業やアクティブラーニングなど様々な場面で利用することができます。

### 23-2 「Zoom」の利用について

「Zoom」の利用方法や注意事項等の詳細は、総合メディアセンター Web ページをご確認ください。必ずマニュアルを見て正しい手順でサインインを行ってください。

※注意！

正しい手順でサインインを行わないと、オンライン授業の出席とならない場合があります。Zoom についてのご案内ページ

URL: <https://www.mrcl.dendai.ac.jp/mrcl/it-service/zoom/>

Zoom を利用するための本学専用のページ

URL: <https://dendai.zoom.us/>

ご案内ページには以下の内容がマニュアルと共に記載されています。

#### 1. Zoom のミーティングに参加する方法

Zoom のミーティングに参加するためには、メール、UINPA、WebClass など授業の担当教員や会議の主催者から案内されているミーティング用 URL、ミーティング ID、パスコードが必要になります。

#### 2. Zoom クライアント用アプリケーションのインストール方法

Zoom を初めて使用する場合は、クライアントアプリケーションのインストールが必要になります。

#### 3. Zoom にサインインする方法

Zoom でミーティングの作成等を行う場合は、本学専用ページにサインインが必要です。

#### 4. Zoom を開催（スケジュール）する方法

Zoom でミーティングを開催するには、本学専用ページでミーティングの作成が必要です。





**TDU**

東京電機大学

TOKYO DENKI UNIVERSITY